

# 病 院 年 報

第 5 号

令和 6 年度 (2024 年度)



医療法人伯鳳会

大阪中央病院

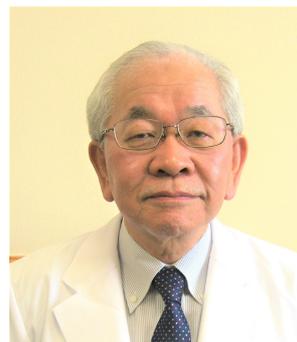
HAKUHOKAI Osaka Central Hospital

# 目 次

大阪中央病院 2024 年度年報の発刊にあたって	1
伯鳳会グループ理念	2
沿革	3
概要	5
基本診療料施設基準届出状況 特掲診療料施設基準届出状況	7
職員構成	8
組織図	9
各種委員会	10
各部門の活動	
内科	11
消化器内科	15
循環器内科	18
外科	20
整形外科	26
皮膚・形成外科	29
泌尿器科	30
婦人科	34
眼科	38
耳鼻咽喉科	39
放射線科	40
麻酔科	42
リハビリテーション科	43
薬剤課	44
臨床検査課	46
臨床工学課	49
栄養課	51
看護部	53
健康管理センター	56
医事課	60

## 大阪中央病院 2024 年度

### 年報の発刊にあたって



院長 弓場 健義

2024 年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延を脱し、落ち着きを取り戻し、日常診療が戻ってきた 1 年間でした。我々、医療人はどのような状況においても粛々と医療業務をこなさなければなりませんし、実際、当院においては新型コロナウイルス感染以前の外来患者数、入院患者数、手術患者数を確保するに至りました。しかしながら、今後の医療状況はまだまだ流動的であり、常に敏感に状況を察知し対応することが求められます。我々は常にデータを注視し、それに基づいて診療体制を再構築する必要があると考えております。そのためには、診療実態、治療成績を振り返り、現状を把握しつつ、将来展望を見据える必要があると考えられます。また、我々自身の治療成績を常日頃から公けにし、学術活動等を通じて第三者の評価を受け、治療成績の向上に繋げる努力が求められると考えております。

本誌は各診療科、健康管理センター、各部門からの 2024 年 1 月～12 月の 1 年間の活動報告、新規取り組み、今後の目標等を記載し、これらを職員全員で共有すること及び公けにすることを目的として刊行され、今回第 5 号をお届けする運びとなりました。

本誌を手にしていただいた皆様には、お時間の許す時にご高覧いただき、ご批判、ご意見をいただければ幸いです。

## 伯鳳会グループ理念

### 『平等医療・平等介護』

- 1、我々は健康サービスの水準を高く保ち、いつも最新の健康サービスが提供できるよう研鑽し、最良の設備、環境を整えます。
- 2、我々はお客様に愛情と尊敬を持って接し、お客様にとって何が最良かを一緒に考え実践します。
- 3、我々は地域社会に安心を提供し、いつも親近感のわく、あたたかい健康サービスを行います。
- 4、我々は他の健康サービスを行う方々と連携し、地域の方々の健康と生活を守ります。
- 5、我々は健康サービスを通じて自己実現を図り、もって多大なる社会貢献を果たすと共に、自らも幸福となります。

医療法人伯鳳会 大阪中央病院

## 沿革

昭和 19 年 10 月 1 日	大同生命保険相互会社直営の「大同病院」(昭和 3 年開設)を継承し、 「健康保険組合連合会 大阪中央病院」と改称 内・外・産婦人・耳鼻咽喉・小児・眼・放射線の各科 110 床で開設 初代院長 松岡 武次郎
昭和 21 年 11 月	院長 林 茂雄
昭和 24 年 3 月	皮膚科・泌尿器科・歯科新設
昭和 29 年 8 月	病床数変更 110 床から 120 床へ
昭和 30 年 9 月	附属准看護婦学校設立許可(校長 林 茂雄院長兼務)
昭和 33 年 9 月	総合病院承認
昭和 34 年 4 月	短期人間ドック(1泊2日方式)実施病院指定(2床)
昭和 36 年 3 月	北館(地上4階 塔屋1階・地下1階 4,337 m <sup>2</sup> )建設
昭和 36 年 5 月	病床数変更 120 床から 312 床へ
昭和 39 年 10 月	産科センター完成(ベビーベッド13床)
昭和 48 年 3 月	整形外科新設
昭和 50 年 3 月	手術棟改築(北館5階建設)
昭和 51 年 2 月	中央材料室、病理検査室、消毒、洗濯室完成
昭和 54 年 2 月	南館6階完工、中央検査室移転
昭和 54 年 3 月	南館5階に人間ドック棟完成、5床から12床へ
昭和 55 年 10 月	増改築に伴う病床数変更 312 床から 290 床(人間ドック12床含)
昭和 60 年 4 月	院長 戸田 良郎
平成 3 年 4 月	院長 榎本 巧 総合健康管理センターを開設
平成 6 年 8 月	産婦人科(産科閉鎖、婦人科のみとする) 小児科閉鎖
平成 8 年 5 月	院長 正岡 昭
平成 9 年 8 月	新病院開設許可 基本設計完了
平成 9 年 9 月	新病院工事着工
平成 11 年 4 月	地域医療連絡室設置
平成 12 年 3 月 1 日	新病院定礎式
平成 12 年 6 月 5 日	健康保険組合連合会 大阪中央病院 開院 (大阪市北区梅田3丁目3番30号 地上13階・地下2階 塔屋2階 駐車場77台) 5病棟、病床数232床、手術室4室 診療科目 内科・消化器内科・循環器内科・外科・整形外科 皮膚 形成外科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科 麻酔科 全12科

平成 12 年 8 月	一般病棟 I 群 入院基本料 2
平成 14 年 4 月	健康管理センター 日本総合健診医学会優良施設認定
平成 14 年 5 月	院長 大橋 秀一
平成 14 年 10 月	病床数変更 232 床から 227 床へ
平成 16 年 7 月	DPC 試行的適用病院として包括評価算定方式導入
平成 16 年 10 月	日本医療機能評価機構認定 (Ver4.0)
平成 17 年 10 月 1 日	創立 60 周年記念式典
平成 19 年 2 月	一般病棟入院基本料 10 対 1 から 7 対 1 へ 病床数変更 227 床から 181 床へ
平成 19 年 4 月	新健康管理センター開所記念式典・内覧会
平成 21 年 10 月	日本医療機能評価機構認定 (Ver6.0)
平成 23 年 1 月	病院基幹システム・健診システム入替
平成 25 年 5 月	9 階病棟および 6・8 階改修 (健診フロアへ) 病床数変更 181 床から 143 床へ
平成 25 年 6 月	泌尿器科 ロボット支援手術装置 ダヴィンチ導入
平成 26 年 4 月	診療録管理体制加算 1
平成 26 年 7 月	医師事務作業補助体制加算 1 健康管理センター 人間ドック健診施設機能評価認定
平成 27 年 7 月	外科に肛門外科 新設
令和元年 10 月 1 日	創立 75 周年記念式典
令和 2 年 4 月	院長 根津 理一郎
令和 2 年 7 月 1 日	健康保険組合連合会から医療法人伯鳳会へ事業譲渡 理事長 古城 資久
令和 3 年 1 月	整形外科関節手術 Mako(メイコー) ロボティックアーム導入 Ai ロボティクス人工関節センター 新設
令和 3 年 2 月	電子カルテ導入 (ソフトウェア・サービス)
令和 3 年 4 月	地域連携・入退院支援センター (周術期管理センター (ペリオ)) 開設 麻酔科外来開始
令和 4 年 3 月	放射線科 CT、MRI 更新入替
令和 4 年 4 月	前立腺センター 新設
令和 5 年 4 月	院長 弓場 健義
令和 5 年 7 月	大阪難聴・めまいセンター 新設
令和 6 年 3 月	泌尿器科 ロボット支援手術装置 「ダヴィンチ X」 へ更新
令和 7 年 4 月	男性不妊センター 新設 健診システム入替 病院ホームページリニューアル

## 概 要

(1)	名 称	医療法人伯鳳会 大阪中央病院
(2)	所 在 地	大阪府大阪市北区梅田3丁目3番30号
(3)	開 設 者	医療法人伯鳳会 理事長 古城 資久
(4)	管 理 者	病院長 弓場 健義
(5)	開 設 年 月 日	令和2年7月1日
(6)	敷 地 面 積	2,528.64 m <sup>2</sup>
(7)	建 設 面 積	1,632.55 m <sup>2</sup>
(8)	延 床 面 接	22,856,831 m <sup>2</sup>
(9)	構 造	S造、SRC造、RC造 地上13階・地下2階・塔屋2階
(10)	施 設	内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、 皮膚・形成外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科 全14科 病棟数 3病棟 病床数 143床 病室 特室1室・個室30室・二人室3室・三人室6室 四人室21室・重症室(2人)2室
(11)	施 設 基 準	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1) 入院時食事療養(I)
(12)	駐 車 場	39台
(13)	病院施設認定一覧	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本消化器病学会専門医制度認定施設</li><li>・日本肝臓病学会認定施設</li><li>・日本循環器研修・関連施設</li><li>・日本外科学会外科専門医制度修練施設</li><li>・日本消化器外科学会専門医修練施設</li><li>・日本消化器内視鏡学会認定施設</li><li>・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</li><li>・日本大腸肛門病学会認定施設</li><li>・日本がん治療認定医機構認定研修施設</li><li>・日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設</li><li>・臨床肛門病技能認定施設</li><li>・日本炎症性腸疾患学会指導施設</li><li>・日本整形外科学会専門医制度修練施設</li><li>・日本産科婦人科学会専門研修連携施設</li><li>・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設</li><li>・日本泌尿器科学会専門医教育施設</li></ul>

- ・ 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本総合健診医学会専門医研修施設
- ・ 日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・ 人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 大阪国際がんセンター連携登録医療機関

## 基本診療料施設基準届出状況

施設基準名	
1	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
2	医療DX推進体制整備加算
3	情報通信機器を用いた診療
4	診療録管理体制加算1
5	医師事務作業補助体制加算2（20対1）
6	急性期看護補助体制加算（25対1）（看護補助者5割未満）
7	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算1）
8	療養環境加算
9	重症者等療養環境特別加算
10	医療安全対策加算1・医療安全対策地域連携加算1
11	感染対策向上加算3・連携強化加算・サーベイランス強化加算
12	術後疼痛管理チーム加算
13	患者サポート体制充実加算
14	後発医薬品使用体制加算1
15	病棟薬剤業務実施加算1
16	データ提出加算（データ提出加算2・ロ・提出データ評価加算）
17	入退院支援加算（加算2）・入院時支援加算
18	認知症ケア加算（加算3）
19	せん妄ハイリスク患者ケア加算
20	排尿自立支援加算
食	入院時食事療養/生活療養（I）

## 特掲診療料施設基準届出状況

施設基準名	
1	糖尿病透析予防指導管理料
2	婦人科特定疾患治療管理料
3	一般不妊治療管理料
4	ニコチン依存症管理料
5	がん治療連携指導料
6	外来排尿自立指導料
7	薬剤管理指導料
8	医療機器安全管理料1
9	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
10	BRCA1/2遺伝子検査
11	H P V核酸検出及びH P V核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
12	検体検査管理加算（I）
13	検体検査管理加算（II）
14	ロービジョン検査判断料
15	コンタクトレンズ検査料1
16	画像診断管理加算1
17	画像診断管理加算2
18	C T撮影及びM R I 撮影
19	冠動脈C T撮影加算
20	心臓M R I 撮影加算
21	乳房M R I 撮影加算
22	無菌製剤処理科
23	運動器リハビリテーション料（I）
24	呼吸器リハビリテーション料（II）
25	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
26	人工股関節置換術（手術支援装置を用いるもの）
27	仙骨神経刺激装置埋込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
28	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
29	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
30	大動脈バルーンパンピング法（I A B P法）
31	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
32	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
33	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
34	人工尿道括約筋植込・置換術
35	精巣内精子採取術
36	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
37	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
38	腹腔鏡下仙骨腫固定術
39	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
40	麻酔管理料（I）
41	外来・在宅ベースアップ評価料（1）
42	入院ベースアップ評価料（85）

# 職員構成

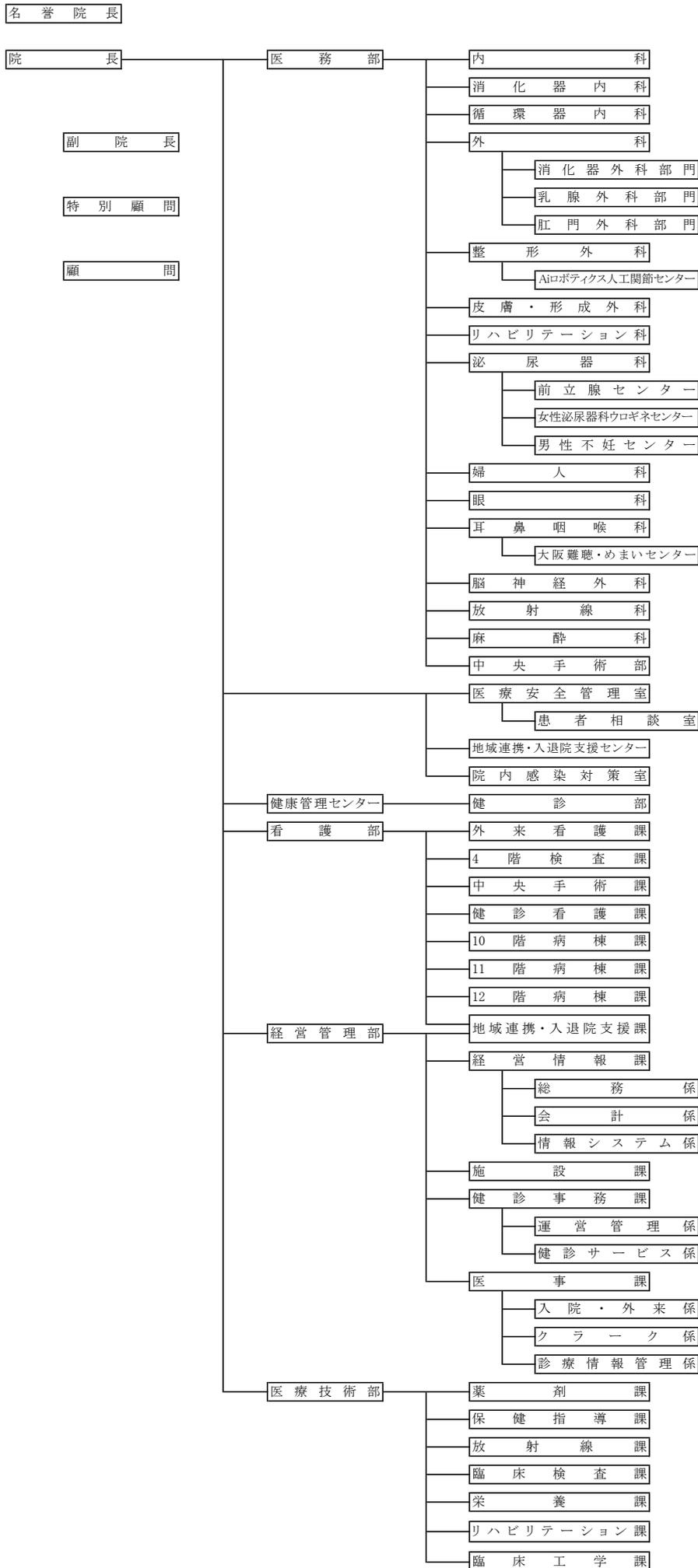
令和7年4月1日現在

区 分		正職員							パートタイム職員							非常勤			合計	
		医師	正看	保健	看助	医技	洗浄	事務	小計	医師	正看	看助	医技	洗浄	事務	小計	医師	医技		小計
医務部	内 科	1							1								6		6	7
	消 化 器 内 科	3							3	1					1	1		1	5	
	循 環 器 内 科	3							3							3		3	6	
	外 科	11							11							2		2	13	
	整 形 外 科	4							4							1		1	5	
	婦 人 科	4							4							3		3	7	
	皮 膚 ・ 形 成 外 科	1							1							2		2	3	
	泌 尿 器 科	4							4							2		2	6	
	耳 鼻 咽 喉 科															4		4	4	
	脳 神 経 外 科															4		4	4	
	眼 科	2							2							2		2	4	
	放 射 線 科	1							1							5		5	6	
	麻 酔 科	5							5										5	
リハビリテーション科	(1)																			
健管C	健 診 部	11							11	4					4	42		42	57	
医療技術部	薬 剤 課					11		1	12										12	
	保 健 指 導 課			7					7										7	
	放 射 線 課					19			19										19	
	臨 床 検 査 課					39			39			3			3	2	3	5	47	
	栄 養 課					4			4										4	
	リハビリテーション課					7			7										7	
	地域連携入退院支援課		4			1		4	9										9	
臨 床 工 学 課					4			4										4		
看護部	看 護 部 長		2						2										2	
	外 来 看 護 課		28		4				32	2	1				3				35	
	4 階 検 査 課		7						7										7	
	中央手術課/中央材料室		18				6		24										24	
	健 診 看 護 課		11		1		1		13	10			4		14				27	
	10 階 病 棟		25		3				28										28	
	11 階 病 棟		22		3				25										25	
12 階 病 棟		26		4				30										30		
経営管理部	経 営 管 理 部							1	1										1	
	経 営 情 報 課							9	9					3	3				12	
	施 設 課							2	2					3	3				5	
	健 診 事 務 課							51	51					6	6				57	
	医 事 課							38	38										38	
合 計		50	143	7	15	85	7	106	413	5	12	1	3	4	12	37	79	3	82	532

※( )は兼務のため小計・合計に含めず

# 組 織 図

令和7年4月1日



## 各種委員会

- (1) 労働安全衛生委員会
- (2) 院内感染防止対策委員会
- (3) 感染対策部委員会
- (4) 薬事委員会
- (5) 治験審査委員会
- (6) 栄養委員会
- (7) 輸血療法委員会
- (8) DPC検討委員会
- (9) 医療ガス安全管理委員会
- (10) 中央手術部委員会
- (11) 診療情報管理委員会
- (12) 広報委員会
- (13) 医療安全管理委員会
- (14) 情報システム委員会
- (15) Re アクション委員会
- (16) 医療倫理委員会
- (17) 年報編集委員会
- (18) 褥瘡対策委員会
- (19) 図書運営委員会
- (20) 福利厚生委員会
- (21) 外来・病床運営委員会
- (22) 個人情報保護委員会
- (23) 教育・研修委員会
- (24) クリニカルパス委員会
- (25) レセプト審査委員会
- (26) 臨床検査適正化委員会
- (27) 職員食堂委員会
- (28) 接遇委員会
- (29) 勤務医(その他)負担軽減対策委員会
- (30) 医療放射線管理委員会
- (31) 機器購入委員会
- (32) 化学療法レジメン運営委員会
- (33) 災害対策委員会
- (34) ハラスメント委員会
- (35) 病院危機管理対策委員会

# 内科

## 1. 概要

### 『 当科の方針と特徴 』

常勤医 1 名と非常勤医 6 名（計 糖尿病専門医師 3 名含む）、健診センター所属医 3 名（糖尿病専門医師 1 名含む）で、糖尿病とその合併症の精査加療および疾患管理を中心にして、肥満症やメタボリック症候群 (MetS)、脂質異常症、脂肪肝（他の肝障害を含）、高尿酸血症、甲状腺疾患、高血圧、貧血、呼吸器疾患の外来診療を主として行なっております。特に糖尿病やその合併症および代謝疾患の管理を最新の治療薬剤や専門デバイスを用いて行なっており、各コメディカルスタッフ（糖尿病療養指導士 6 名、糖尿病認定看護師 1 名）と協同し、より良質な疾患管理に努めています。また、当院検診センターとの医療連携もあり、本年度も多くの患者往来がみられました。2021 年度からは呼吸器内科外来（主に気管支炎を中心とした外来フォローや健診からの胸部画像異常の再検査）も継続しております。あと有症状（発熱、呼吸器症状、全身倦怠感などの感染症難治症例へのアプローチを主に遂行）の外来対応にも内科医として協力しております。内科外来部門では時間/空間的感染隔離をもって安心安全な診療体制を確保しています。2024 年の Medical Readers（大阪）に 2 型糖尿病部門で選出され、生活習慣病の診療環境強化に努めます。

### 『 2025 年度の目標 』

2025 年度も引き続き現状を維持しつつ疾患管理の質の向上に努めてまいります。

## 2. 診療実績

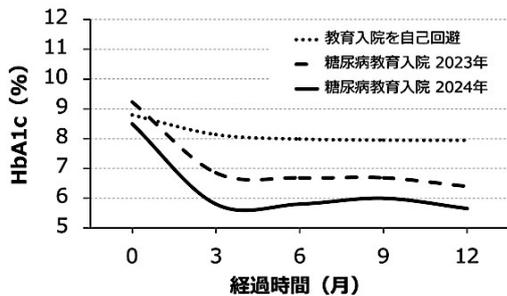
定期外来通院フォロー患者数：4,679 名（おおよそ 2~3 ヶ月間隔で外来フォロー中です）

有症状の外来対応（職員検査も含）：445 名

糖尿病 平均 62.1 歳	糖尿病腎症	肥満症 (MetS 含)	脂質異常症	高尿酸血症	甲状腺	貧血	呼吸器
1,920 名 (1 型 42 名)	1,162 名	579 名	2,376 名	923 名	608 名	519 名	669 名

[ 平均 HbA1c 7.20±1.25% ]

糖尿病などの生活習慣病では、初期の治療介入が非常に重要であるという概念に基づき、当科では約 1 週間（5 泊 6 日）の糖尿病教育入院や血糖コントロール不良症例への入院精査加療を実施



しています。当科糖尿病教育入院は退院後の約 1 年間は学会推奨の HbA1c<7% を維持できます。治療強化の最適化やクリニカルイナーシャ（糖尿病治療の停滞）の是正を早期から行うことで治療内容のレベルアップに糖尿病チーム (DeMteam) として取り組んでいます。2025 年現在、教育入院プログラムの再構築を図り、最新技術を盛り込んだ新たな教育入院を展開中です。

### 3. 業績

#### 【学会発表】

1. 片山弥生、岡田美織、武内真有、山木香名、明神真希子、南 雄三、美内雅之  
糖尿病患者における食事内容と体組成との関連性の検討. 第 23 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2020 年 1 月 24 日～1 月 26 日. 国立京都国際会議場 (京都府) .
2. M Miuchi, A Hatano, M Takeuchi, M Okada, Y Katayama, S Tsuruoka, C Takeuchi.  
Moderate-intensity activity may reduce both the body fat composition and pancreatic glucagon secretion in type 2 diabetes. 56<sup>th</sup> Annual Meeting of European Association for the Study of Diabetes (EASD). 2020 年 9 月 21 日～25 日. via Web presentation (Vienna, Austria) .
3. 美内雅之、山木香名、明神真希子、武内真有、片山弥生、岡田美織、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、南 雄三. 持効溶解型インスリン注射薬と少量 GLP-1 受容体作動薬の併用療法の有用性の検討. 第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル (滋賀県) .
4. 片山弥生、岡田美織、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、山木香名、明神真希子、武内真有、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 摂取栄養素の変化と臨床データとの関連性の検討  
第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル(滋賀県) .
5. 鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、片山弥生、岡田美織、武内真有、明神真希子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 糖尿病治療薬剤の投与状況からみた Clinical inertia ～その後の観察検討 (約 4 年間) ～. 第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル (滋賀県) .
6. 鶴岡早央里、北川克美、長田志織、竹内千里、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、波多野晃弘、武内真有、井上智香子、明神真希子、南 雄三、美内雅之. Clinical inertia の許容範囲の検討 ～2 度の見逃しは HbA1c を悪化させる～. 第 64 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2021 年 5 月 20 日～22 日. 石川県立音楽堂 (石川県) .
7. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、平野弘臣、武内真有、山木香名、明神真希子、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. COVID-19 治癒後の 2 次性サルコペニアの栄養サポート. 第 24 回・第 25 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2022 年 1 月 28 日～30 日. 国立京都国際会館 (京都) .
8. 天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、奥谷美栄子、山木香名、明神真希子、武内真有、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 2 型糖尿病の血糖管理における外食習慣の影響の検討. 第 65 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2022 年 5 月 12～14 日. 神戸国際会議場 (神戸) .
9. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、奥谷美栄子、武内真有、山木香名、明神真希子、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 低栄養状態の 2 型糖尿病における栄養摂取調査. 第 65 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2022 年 5 月 12～14 日. 神戸国際会議場 (神戸) .

10. 天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、奥谷美栄子、能澤鈴佳、竹内千里、山木香名、明神真希子、武内真有、南 雄三、美内雅之. 2 型糖尿病の外食習慣へのアプローチ ～摂取栄養素量からみた栄養指導～. 第 59 回 日本糖尿病近畿地方会. 2022 年 11 月 5 日. 神戸国際会議場(神戸).
11. 美内雅之、能澤鈴佳、明神真希子、山木香名、武内真有、奥谷美栄子、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、竹内千里、南 雄三. 糖尿病診療における Clinical Inertia の腎機能への影響 ～約 4 年間の記録から～. 第 59 回 日本糖尿病近畿地方会. 2022 年 11 月 5 日. 神戸国際会議場(神戸).
12. Masayuki Miuchi, Kana Yamaki, Makiko Myoujin, Mayu Takeuchi, Yuzo Minami. Glucagon elevation and insulin resistance might influence HbA1c ascent in Japanese pre-DM with impaired fasting glucose. The Scientific Session of International Diabetes Federation (IDF) Congress 2022. 2022 年 12 月 5 日～8 日. Lisboa Congress Center (Lisbon, Portugal).
13. 片山弥生、天王寺谷彩奈、岡田美織、奥谷美栄子、山辺鈴佳、竹内千里、井上智香子、山木香名、武内真有、南 雄三、美内雅之. 2 型糖尿病患者における Body mass index (BMI) と体細胞量 (Body cell mass, BCM) 別にみた栄養摂取状況の検討. 第 26 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2023 年 1 月 13 日～15 日. 国立京都国際会館 (京都).
14. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、能澤鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、武内真有、井上智香子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 糖尿病診療におけるパターンテンプレート (食環境評価) の有用性の検討 ～医療者間での情報差が血糖管理に与える影響～. 第 66 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2023 年 5 月 11 日～13 日. 城山ホテル鹿児島 / 鹿児島県民交流センター / 宝山ホール (鹿児島).
15. 美内雅之、片山弥生、天王寺谷彩奈、岡田美織、能澤鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、井上智香子、山木香名、武内真有、南 雄三. 境界型糖尿病領域におけるインスリンとグルカゴンの HbA1c 情報への影響. 第 66 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2023 年 5 月 11 日～13 日. 城山ホテル鹿児島 / 鹿児島県民交流センター / 宝山ホール (鹿児島).
16. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、山辺鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 肥満糖尿病症例における栄養状態と腎機能変化 (年間 eGFR 変化量) の関連性の検討. 第 27 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2024 年 1 月 26 日～28 日. 国立京都国際会館 (京都).
17. 美内雅之、山木香名、奥谷美栄子、伊賀宏美、中西貴子、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、竹内千里、南雄三. 長期継続的な中強度運動療法の効果の検討 ～血糖コントロールと腎保護効果～. 第 67 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2024 年 5 月 17 日～19 日. 東京国際フォーラム (東京).
18. 天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、山木香名、南 雄三、伊賀宏美、中西貴子、奥谷美栄子、竹内千里、美内雅之. 肥満 2 型糖尿病症例における栄養状態 (%BCM) 別にみた栄養指導効果 ～短期間での評価～.
19. 美内雅之、片山弥生、天王寺谷彩奈、岡田美織、奥谷美栄子、山辺鈴佳、竹内千里、山木香名、南 雄三. 糖尿病関連腎臓症 (DKD) の病態別にみた蛋白質摂取制限の有用性の検討 ～栄養状態 (体細胞量 %BCM) を交えて～. 第 28 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2025 年 1 月 17 日～19 日. 国立京都国際会館 (京都).

#### 【原著論文】

1. Saori Tsuruoka, Chisato Takeuchi, Ayana Tennoujiya, Miori Okada, Yayoi Katayama, Akihiro Hatano, Masayuki Miuchi. Clinical inertia in the medical care for patients with diabetes mellitus. J Jpn Soc Hosp Pharm. 58(4):389-394., 2022.

#### 【雑誌原稿】

1. 美内雅之、小池眞一郎. 大阪中央病院糖尿病協会「つばき会」～つばきに添える考察～. 大阪糖尿病協定会報誌. 9., 2021.
2. 美内雅之. 生活習慣病の治療介入開始はお早めに!. 「虹」6(11)., 2021.
3. 美内雅之. 兵庫医科大学 糖尿病内分泌代謝免疫学 同門会雑誌., 2022.
4. 美内雅之. コロナ後の生活習慣管理. つばき会 会報誌., 2023.
5. 美内雅之. メディセーフデータシェア データマネジメントシステムの重要性 ～活用事例から～. Case Report., 2023. (テルモホームページ)

#### 【学会受賞】

1. 美内雅之. Chat で質問賞/JDS Award. 第 64 会 日本糖尿病学会年次学術集会. 2021 年 5 月 20～22 日. 石川県立音楽堂 (石川県).
2. 美内雅之、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生 (DeM support team, DST). レシピコンテスト奨励賞 (優秀賞). 第 24 回・第 25 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2022 年 1 月 28 日～30 日. 国立京都国際会館 (京都).

# 消化器内科

## 1. 概要

消化器内科は、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会の指導施設として学会からの認定を受けています。医師スタッフは、顧問 2 名を含め 6 名で運営（2024 年 11 月で 1 名退職）し、大阪大学消化器内科の協力のもと上部・下部の内視鏡診断・治療や、各種消化器疾患の診療に携わっています。

### 『当科の方針と特徴』

当院は、健康診断受診者が非常に多く、その 2 次健診（精密検査）を受け診療業務を行いながら、一般診療も行っている。主には、上部および下部消化管疾患（癌，ポリープ，ヘリコバクターピロリ感染症）や肝胆膵疾患（膵嚢胞性疾患，胆石，肝炎）などの診断・治療を行い、診療を行っている。また、当院の肛門外科には非常に多くの痔瘻をはじめとした肛門疾患の診療を行っており、クローン病や潰瘍性大腸炎など炎症性腸疾患（IBD）を患っている方が多く含まれるため、肛門外科と連携しながら、IBD の診断や生物製剤の導入などの治療を行っている。

### 『2025 年の目標』

2025 年度も引き続き、内視鏡検査や IBD 診療などの診療機能の充実をはかり入院患者を増やすことに務める。

## 2. 診療実績

	2023 年度	2024 年度
外来患者総数	7,034	7,367
入院患者総数	285	315
内視鏡件数	2,346 件	2,384 件
上部消化管	1,229 件	1,270 件
下部消化管	1,117 件 (EMR 243 件)	1,114 件 (EMR 247 件)

## 3. 業績

### 【原著】

- 1) Yoshimaru Y, Nagaoka K, Tanaka K, Narahara S, Inada H, Kurano S, Tokunaga T, Iio E, Watanabe T, Setoyama H, Tateyama M, Yoshida K, Tsunoda T, Nakamura Y, Tanaka M, Sasaki Y and Tanaka Y  
Randomized phase I/II study of vascular endothelial growth factor receptor peptide vaccines for patients with hepatocellular carcinoma, *Hepatol Res* 2024; 54(5) :451-464

- 2) Qin XY, Shirakami Y, Honda M, Yeh SH, Numata K, Lai YY, Li CL, Wei F, Imai K, Takai K, Chuma M, Komatsu N, Furutani Y, Gailhouste L, Xu Y, Aikata H, Chayama K, Enomoto M, Tateishi R, Kawaguchi K, Yamashita T, Kaneko S, Nagaoka K, Tanaka M, Sasaki Y, Tanaka Y, Baba H, Miura K, Ochi S, Masaki T, Matsuura T, Suzuki H1, Shimizu M, Chen PJ, Moriwaki H, and Kojima S  
Serum MYCN as a predictive biomarker of prognosis and therapeutic response in the prevention of hepatocellular carcinoma recurrence. *Int J cancer* 204 ; 155 : 582-594
- 3) Kumazaki S, Hikita H, Tahata Y, Sung JH, FukumotoK, Myojin Y, Sakane S, Murai K, Sasaki Yo, Shirai K, Saito Y, Kodama T, Kakita N, Takahashi H, Toyoda H, Suda G, Morii E, Kojima T, Ebihara T, Shimizu K, Sasaki Y, Tatsumi T and Takehara T.  
Serum growth differentiation factor 15 is a novel biomarker with high predictive capability for liver cancer occurrence in patients with MASLD regardless of liver fibrosis. *Aliment Pharmacol Ther* 2024; 60(3) :327-339
- 4) Sato K, Hikita H, Shigekawa M, Soma K, Yamauchi R, Sung JH, Kato S, Sasaki Yo, Kudo S, Fukumoto K, Shirai K, Murai K, Tahata Y, Yoshioka T, Nishio A, Saito Y, Kodama T, Sasaki Y, Tatsumi T and Takehara T.  
The serum tenascin C level is a marker of metabolic disorder-related inflammation affecting pancreatic cancer prognosis. *Scientific Report* 2024 ;14(1):12028
- 5) Yanagisawa H, Maeda H, Noguchi I, Tanaka M, Wada N, Nagasaki T, Kobayahi K, Kanazawa G, Taguchi K, Chung VTG, Sakai H, Nakashma H, Kinoshita M, Kitagishi H, Iwakiri Y, Sasaki Y, Tanaka Y, Otagiri M, Watanabe H and Maruyama T.  
Carbon monoxide-loaded red blood cells ameliorate metabolic dysfunction-associated steatohepatitis progression via enhancing AMP-activated protein kinase activity and inhibiting Kupffer cell activation. *Redox Biology* 2024;76:103314

【学会・研究会】

- 1) 佐々木裕：司会、ワークショップ3「門脈圧亢進症における栄養評価の実際と治療介入」  
第31回日本門脈圧亢進症学会総会 2024年9月26日、高知
- 2) 平田一郎：座長、Session1「クローン病の地域医療を考える」、IBD地域医療Seminar、2024年3月7日、大阪
- 3) 平田一郎：講演、Session1「CD 肛門病変合併例に対する内科医としてのアプローチ」、Crohn's Disease Topics Seminar、2024年6月14日、大阪
- 4) 平田一郎：座長、「クローン病の診断と最新治療」、第42回日本大腸検査学会総会共催教育講演会、2024年10月26日、東京

- 5) 平田一郎:座長、「潰瘍性大腸炎と当院におけるベドリズムブの使用成績」、Ulcerative Colitis WEB Seminar、2024年11月11日、大阪
- 6) 平田一郎:講演、特別講演 I 「感染性腸炎の病態・診断・治療」、第314回木曜会、2024年11月14日、東京
- 7) 平田一郎:講演、Session2 「クローン病にみられる肛門病変」、IBD Seminar for Pharmacist、2024年12月17日、大阪

#### 【著書】

- 1) 平田一郎:特集 十二指腸・小腸疾患アトラス - 全身性強皮症に伴う小腸病変、消化器内視鏡 36 (4) : 612-613、2024
- 2) 平田一郎、中野尚子、中川義仁:特集 十二指腸・小腸疾患アトラス - SLEに伴う小腸病変、消化器内視鏡 36 (4) : 608-609、2024

# 循環器内科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当科の方針でありかつ特徴は、『明るく・楽しく・親切』をモットーとし迅速で安全な医療を行うことです。外来診療ではできる検査(各種エコー検査、負荷心電図やホルター心電図等)は可能な限り当日中に行い、入院診療では短期間の入院となるように努めております。当科では、虚血性心疾患、心不全、心臓弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、生活習慣病、家族性高コレステロール血症および静脈血栓症等の診断と治療を行っています。症状、心疾患の家族歴、冠危険因子、心・頸動脈エコー及び負荷心電図の結果をもとに、虚血性心疾患が疑わしければ冠動脈 CT(急性冠症候群等では省略)を施行します。冠動脈 CT 上有意狭窄が疑われれば、入院して頂き冠動脈造影検査を施行します。造影上有意狭窄があれば、当院ではほぼ全例血管内エコーを使い PCI を行います。ここ最近では年間 200-250 例の PCI を行い、死亡・脳梗塞・緊急手術といった重篤な合併症はありません。発作性上室性頻拍、心房粗動、心室頻拍等の頻脈性不整脈及び心房細動に対しては、関西労災病院の増田正晴先生が当院にてアブレーション治療を行っています。年間 75-85 例を治療しています。徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動)に対しては、ペースメーカー植え込み術を施行しています。糖尿病や高齢者の増加に伴い末梢動脈疾患も増加しております。当科では主に腸骨～大腿動脈病変に対する経皮的動脈形成術(PTA)を年間 20-25 例施行しております。動脈硬化性疾患は、高血圧・脂質異常症・糖尿病・喫煙・内臓蓄積型肥満症などの生活習慣病を基盤として発症するため、各々の因子をコントロールすることが重要です。当院では、当院糖尿病内科・栄養部や大阪大学研究グループと連携を密に保ち生活習慣病の予防・加療に努めております。家族性高コレステロール血症(FH)は、LDL 受容体関連遺伝子の変異による常染色体優性遺伝する疾患です。FH ヘテロ接合体患者は 300 人に 1 人以上、ホモ接合体患者は 30 万人に 1 人以上の頻度で認められ、わが国における FH 患者総数は 40 万人以上と推定されています。ホモ接合体患者と一部の重症ヘテロ接合体患者は、内服加療だけでは LDL-コレステロールをコントロールできません。長期予後改善のためには、透析に似た回路を使い血中の LDL を吸着する LDL-アフェレーシスが必須です。当院は梅田にあり交通の便が良いため、大阪大学や国立循環器研究病センターから御紹介頂いた患者さんの LDL-アフェレーシスを施行しています。深部静脈血栓症は、エコノミークラス症候群の認知と共にその病因として広く知られるようになりました。当科では肺塞栓症症例、心肺機能が低下している深部静脈血栓症症例、血栓形成ハイリスク疾患で ADL 改善が期待できない症例、肺塞栓を起こすリスクの高い大腿静脈から腸骨静脈の大きな血栓に対して、一時的もしくは永久的に下大静脈フィルターを留置し血栓溶解療法を施行しています。

### 『スタッフ』

顧問：柳光司      部長：西田義治      医長：西尾宗高  
非常勤医師：増田正晴(関西労災病院・不整脈)、他 2 名

## 『2025年の目標』

可能な範囲で迅速で安全な医療を最大限に行う。

## 2. 診療実績

	2023年(1月～12月)	2024年(1月～12月)
年間外来患者数	20,998人	20,670人
年間初診患者数	235人	214人
年間入院患者数	1,074人	1,088人
冠動脈造影検査(PCI等含む)	514例	490例
経皮的冠動脈形成術(PCI)	238例	213例
経皮的動脈形成術(PTA)	19例	18例
経皮的腎動脈形成術(PTRA)	2例	4例
カテーテルアブレーション	83例	91例
ペースメーカー留置術	4例	11例
下大静脈フィルター	4例	7例
心エコー	3,286例	3,428例
経食道エコー	0件	1件
頸動脈エコー	2,664例	2,661例
下肢動脈エコー	289例	258例
下肢静脈エコー	815例	854例
腎動脈エコー	744例	660例
トレッドミル運動負荷心電図	1,748例	1,688例
ホルター心電図	356例	382例
心臓CT	1,017例	981例

## 3. 業績

### 【学会・研究会・司会】

長谷川千依乃, 竹内千里, 山本真大, 柳光司: SGLT2阻害剤の興味ある副作用, 第30回中之島循環器・代謝フォーラム, 2024年9月14日, 大阪市

柳光司: 生活習慣病管理と Anti-aging, 内分泌・代謝・循環器セミナー, 2024年12月11日, 大阪市

水本拓見, 山本真大, 西尾宗高, 西田義治, 柳光司: 多枝病変を有する FH ヘテロ接合体症例に対する PCI の検討, 第17回 FH と脂質管理について考える会, 2024年12月13日, 大阪市

# 外科

## 1. 概要

『当科の方針と特徴』

大阪中央病院外科は消化器外科、肛門外科および乳腺外科よりなります。以下、各領域別に方針と特徴について述べます。

### <消化器外科>

消化器外科については、根津、弓場、安田、相馬が内視鏡外科手術（90%以上）を中心に手術を行っています。また、内視鏡外科学会技術認定取得者（合格率30%以下）が2名（胃1名、胆道1名）在籍しています。当科は大阪大学消化器外科の関連病院として連携しています。

- ・難治性の直腸脱（完全直腸脱）症例に対して、より再発が少ないとされる腹腔鏡下直腸固定術を積極的に行っております。2015年末までに腹腔鏡下直腸後方固定術（Wells変法）を47例に行い、2016年初めからは、より良い成績と低侵襲を目指して、欧米で標準術式とされる腹腔鏡下直腸腹側固定術（Ventral rectopexy）を導入しました。現在は、患者様の状態に合わせて腹腔鏡下直腸腹側固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術を選択的に行い、メッシュの使用を希望されない患者様には腹腔鏡下直腸縫合固定術を行っています。2025年4月までに合計569例に施行し、再発率は1-2%未満と良好な成績を上げており、他施設で手術後の再発患者にも、積極的に手術を行っています。
- ・胆嚢疾患：胆石症や胆嚢ポリープ・胆嚢腺筋症などに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術は、例年40～70例程度に施行しています。さらに総胆管結石症に対しても、患者様の要望に応じて胆嚢摘出と同時に腹腔鏡下での総胆管結石の除去術を行っています。
- ・食道疾患：当科では腹部食道の良性疾患に力を入れてきました。腹部食道は通常の開腹手術では相当な腹壁の切開を必要とする手術ですが、腹腔鏡を用いることでより低侵襲に良好な術野が展開できるため、腹腔鏡下手術の良い適応と考えられます。食道アカラシアに対する腹腔鏡下手術はこれまでに36例に行い、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下噴門形成術はこれまでに46例に行いました。
- ・胃疾患：胃癌に対する腹腔鏡下手術は、当科において積極的に施行しています（腹腔鏡下手術率90%以上）。とくに当初、早期胃癌のみが適応でしたが、郭清技術の向上にともない、進行胃癌にも適応を広げています。また、以前は体腔外で吻合を行う「腹腔鏡補助下胃切除術」でしたが、2015年よりはすべて腹腔内で吻合を行う「完全腹腔鏡下胃切除術」を施行しています。術後の補助化学療法、進行再発癌に対する化学療法もガイドラインに準じて行っております。
- ・大腸疾患：大腸癌に対しても積極的に腹腔鏡下手術を導入しています。一部の例外（腸閉塞を併発した症例や周辺の臓器に浸潤した腫瘍の症例など）を除いて、殆どの大腸癌症例に腹腔鏡下手術を施行しています。年間10～30人程度の大腸癌症例に手術を施行していま

すが、腹腔鏡下手術の割合は90%を越えています。また、以前は体腔外で吻合を行う「腹腔鏡補助下結腸切除術」でしたが、2019年よりはすべて腹腔内で吻合を行う「腹腔鏡下結腸切除術」を施行しています。術後の補助化学療法、進行再発癌に対する化学療法もガイドラインに準じて行っております。

- ・炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）に対しても積極的に腹腔鏡下手術を導入しています。また潰瘍性大腸炎根治手術後の合併症併発例に対するサルベージ手術、クローン病再発例、肛門病変合併例に対する外科治療にも取り組んでおり、良好な成績を収めています。
- ・その他：急性虫垂炎はほぼ全例に、鼠経ヘルニアも80%を越えて積極的に腹腔鏡下手術を行っています。

#### <肛門外科>

肛門疾患については、齋藤を中心に小野、三宅、久能、内海、竹中、が痔核、裂肛、痔瘻、脱肛、直腸脱などの疾患を専門診療、手術しています。

当院の診療の性格（位置づけ）は、大腸肛門病学会認定の肛門専門医・指導医、臨床肛門病学会認定の肛門疾患の技能認定医・指導医が複数勤務する肛門診療の基幹的（紹介型）施設です。すなわち、近畿地方の診療所や病院から診断・治療の難しい肛門疾患の症例や、治療後の経過が思わしくない症例が多数紹介される施設で、2024年度の手術数は1,900件を超えました。

#### <乳腺・甲状腺外科>

乳腺・甲状腺疾患については、安田と非常勤医（兵庫医科大学）を中心として診療していましたが、2025年4月からは竹中医師が常勤医として赴任し、当院健診センターとの協力体制で、診断から治療（手術、化学療法など）まで一貫した診療を行っていきます。

2024年度は、CNBを59例に施行。内37例が乳がんと診断され、16例を当院乳腺外科で根治手術をしました。検診マンモグラフィーの異常所見の中で、微小石灰化病変が指摘される頻度は高く、DCISを示唆する症例を如何に的確に診断するかが問題です。微小石灰化部位を超音波下にCNB生検し組織診断に至りますが、微小石灰化病変は超音波検査では描出されず、いかに該当部位を同定するかが問題となり、3Dマンモグラフィーで石灰化部位をより正確に同定し、エコー下CNB行う工夫も行っています。

#### 『スタッフ』

現在（2024年4月1日）の陣容は、根津理一郎名誉院長、弓場健義院長、小林哲郎特別顧問、齋藤徹特別顧問、相馬大人外科部長、安田潤消化器外科部長、小野朋二郎肛門外科部長、三宅祐一朗医長、久能英法医長、内海昌子医員、竹中雄也、渡部晃大、竹中玲子、計13名に、富樫優紗（乳腺外科）非常勤医師2名で構成されています。

『2025年度の目標』

消化器外科：肛門外科とタイアップし、完全直腸脱症例に対する腹腔鏡下直腸固定術症例の更なる増加に努め、本邦有数の診療実績を目指します。消化器内科と連携し、胃癌・大腸癌の手術症例の増加に努めます。また、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術におけるロボット支援の保険収載時に対応できるように準備します。

肛門外科：2024年度の件数をさらに上回ることを目指します。

乳腺・甲状腺外科：女性医師の参加により、患者がより受診しやすい診療体制となったため、患者数の増加に努めます。微小石灰化病変の診断については、vacuum assisted mammotomeの導入など検討をしております。エコー部門の診断のskill upを更につとめてゆきたいと考えています。

## 2. 診療実績

	2021年	2022年	2023年	2024年
外来患者数	14,445	17,297	19,589	20,498
入院患者数	1,495	1,801	2,124	2,241
初診患者数	2,504	2,949	3,250	3,375

### 2018年～2024年 主な手術実績（消化器外科）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
食道裂孔ヘルニア	0	1	0	0	1	2	1
胃癌(粘膜下腫瘍含む)	12	10	7	7	3	4	1
結腸・直腸癌	27	14	17	16	10	20	17
胆石・胆嚢ポリープ	60	51	48	42	47	38	40
総胆管結石症	3	3	1	2	3	1	0
ヘルニア	31	41	18	26	36	32	26
虫垂炎	4	6	3	2	7	2	2
直腸脱 [腹腔鏡下手術]	180 [37]	124 [46]	143 [60]	133 [52]	160 [69]	120 [82]	111 [89]
炎症性腸疾患			1	2	1	0	0

2018年～2024年 主な手術実績（肛門外科）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
痔核	553	695	517	622	672	782	784
痔瘻	436	551	521	561	606	674	689
裂肛・肛門狭窄	71	76	67	49	31	81	96
直腸脱・粘膜脱	143	78	83	110	135	129	128
その他	99	135	168	104	167	204	210
計	1,302	1,535	1,356	1,446	1,611	1,870	1,907

2018年～2024年 主な手術実績（乳腺・甲状腺外科）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
乳癌	27	31	27	28	25	28	16

2018年～2024年 NCD登録数（消化器一般、肛門外科、乳腺・甲状腺外科）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
NCD登録数	1,517	1,798	1,565	1,594	1,853	2,119	2,447

### 3. 業績

【学会・研究会・座長・司会】

『発表・講演』

1. 斎藤徹：診療報酬K743の5のALTA併用療法とは？：近畿肛門疾患懇談会；2024年11月9日  
大阪
2. 斎藤徹：痔瘻診断のコツとシートン法，女性肛門科医師の会；2024年9月29日；東京
3. 相馬大人、弓場健義、安田潤、内海昌子、久能英法、三宅祐一郎、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎：ALTA治療後の再発直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の検討，第79回日本消化器外科学会，2024年7月17日-19日；下関市
4. 相馬大人、安田潤、久能英法、三宅祐一郎、内海昌子、小野朋二郎、斎藤徹、根津理一郎、弓場健義：90歳以上の高齢者直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の有用性，第37回日本内視鏡外科学会；2024年12月5日-7日；福岡市
5. 小野朋二郎、三宅祐一郎、久能英法、斎藤徹：ALTA療法後の再発痔核に対する痔核根治術の成績，第17回内痔核治療法研究会；2024年7月14日；東京

6. 小野朋二郎、三宅 祐一朗、久能 英法、齋藤 徹：低位筋間痔瘻に対する括約筋温存術式の手術手技と成績，第 7 回日本臨床肛門病学会；2024 年 3 月 17 日；東京
7. 小野朋二郎：深部痔瘻に対する括約筋温存術の手技と成績，第 15 回西日本直腸肛門疾患懇談会；2024 年 8 月 3 日；福岡市
8. 小野朋二郎、三宅 祐一朗、久能 英法、相馬 大人、安田 潤、齋藤 徹、根津 理一郎、弓場 健義：Parks 分類で括約筋貫通型に分類される IIL 型痔瘻症例の検討，第 79 回日本大腸肛門病学会；2024 年 11 月 29 日-30 日；横浜市
9. 小野朋二郎、三宅 祐一朗、久能 英法、相馬 大人、安田 潤、齋藤 徹、根津 理一郎、弓場 健義：全周性の高度痔核に対する MuRAL 変法の手技と成績，第 79 回日本大腸肛門病学会；2024 年 11 月 29 日-30 日；横浜市
10. 小野朋二郎：痔核に対する結紮切除術，第 206 回大腸肛門病懇談会；2024 年 12 月 14 日；東京
11. 三宅祐一朗、小野朋二郎、齋藤徹、久能英法、安田潤、相馬大人、弓場健義、根津理一郎：輸血を要した痔核手術後出血の経験，第 126 回近畿肛門疾患懇談会；2024 年 2 月 17 日；大阪市
12. 三宅祐一朗、小野朋二郎、齋藤徹、内海昌子、久能英法、安田潤、相馬大人、弓場健義、根津理一郎：確定診断を得るのに苦慮し切除生検にて診断し得た痔瘻癌 3 例の経験，第 79 回日本大腸肛門病学会；2024 年 11 月 29 日-30 日；横浜市
13. 安田潤、小林哲郎、吉田康之：術後内分泌療法中に発症した扁平上皮癌成分を有する浸潤性乳管癌の一例，第 32 回日本乳癌学会；2024 年 7 月 11 日-13 日；仙台市
14. 安田潤、弓場健義、相馬大人、内海昌子、久能英法、三宅祐一朗、小野朋二郎、齋藤徹、根津理一郎：先進部が重積し血流障害を起こした完全直腸脱に対して腹腔鏡下直腸切断術を施行した 2 例，第 86 回日本臨床外科学会；2024 年 11 月 21 日-23 日；宇都宮市
15. 安田潤、弓場健義、相馬大人、内海昌子、久能英法、三宅祐一朗、小野朋二郎、齋藤徹、根津理一郎：大腸憩室炎による S 状結腸膀胱瘻に対して腹腔鏡手術を施行した 3 例，第 79 回日本大腸肛門病学会；2024 年 11 月 29 日-11 月 30 日；横浜市
16. 久能英法、小野朋二郎、内海昌子、三宅祐一朗、安田潤、相馬大人、根津理一郎、弓場健義、齋藤徹：腸重積による虚血性変化を生じた直腸脱の一例，第 79 回日本大腸肛門病学会；2024 年 11 月 29 日-30 日；横浜市
17. 福田正博、外山 学、弓場健義、星賀正明、澤 芳樹、中尾正俊、高井康之、茂松茂人：令和 5 年度 大阪府医師会生涯研修活動の実態，大阪府医師会医学会；2024 年 11 月 4 日；大阪市

#### 『座長・司会』

1. 根津理一郎：症例検討（炎症性腸疾患の診療アプローチ），第 92 回 IBD mini よろず相談会（司会）；2024 年 6 月 27 日；大阪市
2. 根津理一郎：BD 診療における臨床上での予期せぬ経験，第 47 回大腸病態治療研究会（司会）；2024 年 10 月 24 日；大阪市

3. 齋藤徹：内括約筋内瘻管残存、肛門上皮温存、LIFT 変法，第 7 回日本臨床肛門病学会 シンポジウム 2 (司会)；2024 年 3 月 17 日；新宿
4. 齋藤徹：肛門診療におけるインシデント・アクシデント，第 126 回近畿肛門疾患懇談会(代表世話人)；2024 年 2 月 17 日；大阪市
5. 齋藤徹：裂肛の治療(How I do it)，第 127 回近畿肛門疾患懇談会(代表世話人)；2024 年 6 月 1 日；大阪市
6. 齋藤徹：ALTA 併用療法，第 128 回近畿肛門疾患懇談会(代表世話人)；2024 年 11 月 9 日；大阪市

#### 【論文・著書】

1. 齋藤徹，内海昌子、久能英法：ALTA(Aluminum Potassium Sulfate Hydrate, Tannic Acid)療法の評価－有害事象に関して：日本臨床肛門病会誌：2024；7 卷 1 号：64-69.
2. 弓場健義，相馬大人，安田潤，中 島清一，齋藤徹，根津理一郎；完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術後における直腸肛門機能：直腸腹側固定術と後方固定術の比較：日本内視鏡外科学会雑誌：2024；29 卷 1 号：10-18.
3. 相馬大人，齋藤徹，安田潤，久能英法，内海昌子，三宅祐一朗，小野朋二郎，根津理一郎，弓場健義：完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術：術中経肛門的吸引試験(TAVT)を用いた術式選択：消化器外科；47 卷 8 号：921-930
4. 小野朋二郎，内海昌子，久能英法，三宅祐一朗，齋藤徹：検査・診かた：臨牀消化器内科：2024；39 卷 4 号：367-372.

#### 【多施設共同研究への参加・製薬企業からの受託研究】

1. StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法  
または XELOX 療法における 5-FU 系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 (JFMC-1202-C3 ACHIEVE Trial)  
財団法人がん集学的治療研究財団 (2012. 8. 1～2021. 7. 31)
2. 直腸脱の手術成績に関する後ろ向き研究 Retrospective Study of Surgical Outcomes for Rectal Prolapse 大阪大学消化器外科共同研究会 大腸疾患分科会 (2021 年 1 月～)
3. 厚労省「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(久松班) project 研究 (多施設共同)「潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOL の観点から」(2020 年 6 月～)

# 整形外科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当院整形外科では、膝関節、股関節、肩関節疾患に対する関節外科を中心に診療を行っている。近年、治療による患者満足度は、医療機関の信頼性や医療の質の一つの指標となっています。

当院でも人工関節手術における医療の質の向上を目的に、2021年1月に人工関節手術支援ロボット Mako SmartRobotics (Stryker 社) の導入を機に「Ai ロボティクス人工関節センター」を開設しました。

### Ai ロボティクス人工関節センター

当院では、人工関節手術の術前計画から手術、リハビリテーションに至る一連の過程に「Ai・デジタルライゼーション×ロボティクステクノロジー」を導入することで良質な医療を提供し、患者様の満足度の向上、早期の社会復帰を目指しています。

Mako システムは 2006 年に米国で開発された人工関節置換術用のロボティックアーム支援システムです。このロボットによる手術は人の手の代わりにロボットアームが医師の管理下に適切な手術操作を行うため、安全性と精度が向上します。そのため、人工関節の設置精度向上や脱臼率の低減、術後の疼痛が軽減されます。

### Mako 人工関節手術の特徴

#### ・緻密な三次元での術前計画

患者個別の三次元 CT データをもとに術前計画を作成し、その計画に沿って手術を行います。そのため、より正確な人工関節の設置が可能となり、人工関節の機能を最大限に発揮させ、さらには人工関節の長寿命化にもつながります。

#### ・ロボティックアームによる術中の関節バランス調整や骨切りガイド

執刀医は術中にも、より精密な関節バランスの調整を行うことができ、より動きやすい関節の機能を得ることができます。また、画面での状況確認やアームの強制ロックなどにより、骨切りのミスや血管・神経の損傷などの合併症を防ぎます。

## 膝関節外科

### スポーツ外傷・障害の治療

- ・半月板損傷や靭帯損傷などのスポーツ外傷に対する関節鏡視下手術
- ・関節軟骨損傷に対する鏡視下骨軟骨柱移植術や自家培養軟骨細胞移植術

### 変形性膝関節症の治療

- ・初期変形性膝関節症対しては変性半月板損傷や関節軟骨障害には関節鏡手術
- ・中期変形性膝関節症には骨切り術や片側型人工膝関節置換術 (Mako SmartRobotics、PSI+Navigation)

- ・末期変形性膝関節症には全人工関節置換術(Mako SmartRobotics、 PSI+Navigation)と病期によって適切な治療を選択して行っています。

### 股関節外科

- ・股関節唇損傷や大腿臼蓋インピンジメントに対する関節鏡視下手術
- ・変形性股関節症、関節リウマチや大腿骨頭壊死による進行期、末期の股関節障害に対して筋肉を切らずインナーマッスルを温存する前方アプローチによる最小侵襲人工股関節置換術(Mako SmartRobotics PSI+Navigation)を行っています。

### 肩関節外科

- ・腱板断裂、インピンジメント症候群、肩関節脱臼などに対する関節鏡下手術
- ・変形性肩関節症に対する人工関節手術
- ・拘縮肩に対するリハビリおよび外科的治療を行っています。

### 『スタッフ』

副院長 兼リハビリテーション科部長 : 坪田 次郎

整形外科顧問 : 林田 賢治

整形外科部長 兼 Ai ロボティクス人工関節センター長 : 藪野 互平

Ai ロボティクス人工関節センター 副センター長 : 藪田 健太郎

### 『2025年の目標』

- 人生100年時代を健康に生きる-

人生100年時代を健康に生きるために、基盤となる歩行機能の維持、また肩、膝、股関節などの関節の痛みに悩まされない生活の実現を目指し、治療をとおして社会に貢献していきたいと考えます。

## 2. 診療実績

年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	8,101	6,895	7,475	8,760	9,550	9,763
入院	6,227	5,667	6,974	8,150	7,986	9,555
新入院患者	261	251	329	363	424	485

病棟・手術体制

病床数は25床を常勤医4名で担当し、月曜、火曜、水曜午前、木曜、金曜に手術を行った。

## 手術件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
関節鏡視下半月板手術（膝）	57	48	32	24	26	21
関節鏡視下鼠摘出（膝）	18	8	9	11	9	7
関節鏡視下靭帯形成術（膝）	15	15	15	6	5	4
関節鏡視下滑膜切除（膝）	0	0	9	4	3	4
関節鏡下関節唇縫合（股）	0	0	1	0	1	0
関節鏡視下鍵盤断裂手術（肩）	0	0	0	19	33	37
関節鏡視下関節唇形成術（肩）	0	0	0	4	6	3
関節鏡視下滑液膜摘出（肩）	0	0	0	5	14	12
人工関節置換術（膝）	86	72	140	143	153	178
人工膝関節再置換術	1	1	2	2	2	0
人工関節置換術（股）	33	43	71	96	117	152
人工関節再置換術（股）	1	1	0	0	1	2
人工関節置換術（肩）	0	0	0	7	7	5
人工関節再置換術（肩）	0	0	0	0	1	0
人工関節置換術（足）	0	0	0	1	1	0
骨切り術	0	4	3	2	4	0
外反拇趾	0	0	1	2	0	1
上肢骨折	2	4	1	1	1	1
下肢骨折	8	10	4	7	3	8
その他部位の骨折	4	2	0	15	8	0
抜釘などその他	28	33	57	38	30	47
<b>総手術数</b>	<b>253</b>	<b>242</b>	<b>338</b>	<b>384</b>	<b>425</b>	<b>482</b>

## 3. 業績

### 【学会発表】

- MAKO ロボティクスによる外側人工膝関節単顆型置換術の短期成績  
第 54 回日本人工関節学会 京都 2024/2/23-24 藪野藪野互平
- Direct Anterior Approach を用いた MAKO THA における骨蠟による出血量減少効果  
第 50 回日本股関節学会 岡山 2024/10/24-25 藪野互平 坪田次郎

# 皮膚・形成外科

## 1. 概要

『当科の方針と特徴』

- ・当科は皮膚科と形成外科という2つの科で一診療科を構成しています。両診療科は共通した疾患を取り扱うことが多く、診療に関する情報を相互共有しやすくすることで、よりクオリティの高い医療を目指しています。
- ・皮膚科、形成外科ともに、すべて専門医が診療します。
- ・当院形成外科では、特に眼瞼下垂症、下肢静脈瘤の診療に力を入れています。なお、すべての診療は形成外科専門医、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による指導医が行います。

『スタッフ』

形成外科部長： 月野暁彦（形成外科専門医・血管内焼灼術指導医・皮膚腫瘍外科指導医）

皮膚科(非常勤)：平野亜由子（皮膚科専門医）

『2025年の目標』

当科では、専門医が安全で確実な治療を行うというスタンスで診療しております。

形成外科では、診療の主体である、眼瞼下垂と下肢静脈瘤の症例を増やしていきたいと考えております。

## 2. 診療実績

年（1月～12月集計）	2021年	2022年	2023年	2024年
外来患者延数	4,412	5,032	4,952	4,717
初診患者延数	553	498	485	417
入院患者延数 （退院患者含む）	470	617	688	310

年（1月～12月集計）	2021年	2022年	2023年	2024年
手術件数 入院	129	181	161	113
外来	117	200	230	192
眼瞼下垂手術	73	103	80	70
下肢静脈瘤手術	40	36	27	28
皮膚皮下腫瘍摘出術	128	130	158	173

# 泌尿器科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当院が都心に位置することを最大限に活用すべく、すべての泌尿器科領域の疾患に対して低侵襲かつ早期社会復帰を目指して診察、治療を行っている。入院での治療が標準である結石破碎治療は外来手術で行い、経尿道的膀胱腫瘍切除術の入院期間は5日間と大阪府下有数の短期入院である。また、前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術は早くから導入し、神経温存や膀胱機能温存など合併症を極力減らした術式を実施している。

### 『スタッフ』

部長 木内 寛、医長 惣田 哲治、医員 宮田 勇士、吉岡 史江

各曜日午前中は1~2診で外来診療を行い、月・水・金の午後には女性専用のウロギネセンターを、金の午後には男性不妊センター（精索静脈瘤・不妊・ED）を開設している。

### 『2025年の目標』

2025年4月に開設した男性不妊症センターにおいて、最新の治療を提供するとともに、情報発信力を強化し、地域貢献をしたいと考えている。2024年4月にロボット手術に使用するダヴィンチの機種をSiからXへ更新し、より高度な前立腺癌手術を実現する。前立腺癌が疑われるPSA高値の場合、迅速なMRIによる診断とサドルブロックを使用して、痛みのない1泊2日の前立腺生検を行っている。さらに、当科が従来より取り組んできた女性泌尿器科手術の件数も、今後一層増加させていきたいと考えている。

## 2. 診療実績

2022年度と比較して、2023年度は外来新患数、入院件数、手術件数のすべてにおいて増加した（表1）。COVID-19で少なくなった骨盤臓器脱や尿失禁などの女性泌尿器科手術は以前よりも増加した。2022年から不妊症治療が保険適応になったことに加え、近隣の不妊クリニックとの連携を新たに構築したことで、男性泌尿器科の手術件数が増加した（表2）。

表1 泌尿器科の外来、入院、手術実績

	外来新患数	1日平均 外来患者数	入院件数	手術件数 (ESWL含まず)	ESWL (体外衝撃波 碎石術)
2022年	505	41.6	488	374	48
2023年	530	43.0	566	462	16
2024年	524	40.9	603	497	18

表 2 泌尿器科の手術内訳

	内視鏡手術	腹腔鏡手術	ロボット手術	女性泌尿器手術*	男性不妊手術*
2022 年	110	18	28	66	24
2023 年	139	21	29	71	39
2024 年	158	21	25	95	40

女性泌尿器手術\* : TVM、LSC、TVT (TOT)

男性不妊手術\* : 精索静脈瘤低位結紮術、腹腔鏡下精索静脈瘤根治術、micro-TESE、simple TESE

【当科で行っている主な手術】

内視鏡手術 : TURBT、HoLEP、TURP、TUL、膀胱水圧拡張術、尿管腫瘍レーザー切除術

腹腔鏡手術 : 腎部分切除術、腎摘除術、腎尿管全摘除術、副腎摘除術、膀胱全摘除術、

精索静脈瘤根治術、尿膜管摘除術、LSC

体外衝撃波尿路結石破碎 (STORZ 社製 MODULITH SLX-F2/Connect)

ロボット手術 : RARP (ダヴィンチ X)

女性泌尿器科手術 : TVM、LSC、TVT、TOT、ボトックス注入

男性不妊手術 : 精索静脈瘤低位結紮術、腹腔鏡下精索静脈瘤根治術、micro-TESE、simple TESE、  
精管精管吻合術、精管精巣上体吻合術

### 3. 業績

【論文】

1. Soda T, Kiuchi H, Koida Y, Imanaka T, Oida T, Matsuoka Y, Sekii K. Transvaginal Polytetrafluoroethylene Mesh Surgery for Pelvic Organ Prolapse: One-Year Safety and Efficacy Results. *Urology*. Feb 15: S0090-4295(24)00081-5. 2024
2. Yoshioka F, Kiuchi H, Soda T, Sekii K. Aggressive Prostate Cancer After a 14-Year Gonadotropin Therapy: A Case Report. *Cureus*. **16**(6): e62672. 2024.
3. Kuribayashi S, Fukuhara S, Kitakaze H, Tsujimura G, Imanaka T, Ueda N, Takezawa K, Kiuchi H, Tachi A, Sakamoto J, Abe T, Tanigawa G, Miyagawa Y, Fujimoto T, Nonomura N. Association between serum testosterone changes and parameters of the metabolic syndrome. *Endocr J*. **71**(12):1125-1133. 2024.
4. 吉岡史江, 惣田哲次, 鯉田容平, 木内寛, 関井謙一郎. 後腹膜腔鏡下单純腎摘除術後に胸痛を伴う縦隔気腫を認めた 1 例. *泌尿器科紀要* **70** (9), 289-292, 2024.
5. 関井謙一郎, 惣田哲次, 鯉田容平, 木内寛. 単一術者が施行し術後 3 年以上経過したロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術(RARP)253 例の排尿状態の検討. *泌尿器外科* **37** (4), 349-354, 2024.

### 【学会発表】

1. 惣田哲次, 吉岡史江, 宮田勇士, 木内寛, 関井謙一郎: 再発性精索静脈瘤に対して外科的治療を行った3症例: 第111回日本泌尿器科学会総会; 2024年4月26日; 横浜
2. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 鯉田容, 関井謙一郎: RALP中に起こった針の紛失: 第111回日本泌尿器科学会総会; 2024年4月26日; 横浜
3. 関井謙一郎, 吉岡史江, 惣田哲次, 木内寛: 大阪中央病院で施行したHolep 111例の検討—長期経過の評価—: 第111回日本泌尿器科学会総会; 2024年4月26日; 横浜
4. 惣田哲次, 宮田勇士, 吉岡史江, 木内寛, 関井謙一郎: 疼痛を主訴とする精索静脈瘤に対する外科的治療の術後成績: 第43回日本アンドロロジー学会; 2024年6月9日; 東京
5. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 関井謙一郎: 不妊症に対する14年間のゴナドトロピン補充療法後に多発骨転移を伴う高悪性度前立腺癌を発症した1例: 第43回日本アンドロロジー学会; 2024年6月9日; 東京
6. 木内寛, 吉岡史江, 宮田勇士, 惣田哲次, 関井謙一郎: 排尿障害のある骨盤臓器患者はTVM手術後すぐに排尿機能に関する客観的指標が改善する: 第31回日本排尿機能学会; 2024年9月5日; 福島
7. 木内寛, 吉岡史江, 宮田勇士, 惣田哲次, 関井謙一郎: RARP後に腹腔内への尿のリークが原因で腹痛を来した1例: 第31回日本排尿機能学会; 2024年9月5日; 福島
8. 木内寛, 吉岡史江, 宮田勇士, 惣田哲次, 関井謙一郎: 性機能と排尿機能(アンドロロジーと排尿障害): 第31回日本排尿機能学会; 2024年9月5日; 福島
9. 宮田勇士, 吉岡史江, 惣田哲次, 木内寛, 関井謙一郎: 前立腺生検後の敗血症で重篤な経過を辿った2例と周術期抗生剤の検討: 第76回西日本泌尿器科学会総会; 2024年11月1日; 佐賀
10. 木内寛, 吉岡史江, 宮田勇士, 惣田哲次, 関井謙一郎: ナトリウム排泄のサーカディアンリズムの変調と夜間多尿: 大阪府医師会医学会総会(令和6年度); 2024年11月4日; 大阪

### 【ガイドライン】

1. 木内 寛, 他. 成人における膀胱留置カテーテルに関する欧州泌尿器科看護協会ガイドライン. 一般社団法人日本臨床泌尿器科医会 日本語訳版, 2024
2. 木内 寛, 他. 成人における尿道からの間欠的カテーテル挿入に関する欧州泌尿器科看護協会ガイドライン. 一般社団法人日本臨床泌尿器科医会 日本語訳版, 2024

### 【講演会・セミナー】

1. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 鯉田容平, 関井謙一郎: 夜間頻尿の最近の話題: 扶桑薬品工業社内講演; 2024年11月7日; 大阪

【座長・司会】

1. 木内寛: 前立腺腫瘍/薬物療法⑤: 第 111 回日本泌尿器科学会総会; 2024 年 4 月 26 日; 横浜
2. 木内寛: 前立腺癌内分泌療法と骨粗鬆症: 第 11 回大阪泌尿器科連携フォーラム; 2024 年 9 月 21 日; 大阪

【学術賞】

1. 惣田哲次  
令和 6 年度 大阪泌尿器科臨床医会 学術奨励賞:  
疼痛を認める精索静脈瘤に対する外科的治療の有効性と安全性

# 婦人科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当科は 2006 年より腹腔鏡下手術に特化した診療を開始し、現在まで 8000 例を超える腹腔鏡下手術を施行してきた。現在、良性疾患に対する手術を中心と診療をしており、対象となるものは主として子宮筋腫・子宮内膜症・子宮腺筋症・卵巣嚢腫・不妊症である。婦人科良性疾患は悪性疾患との鑑別は重要であり、安全に手術を行うための評価(手術を行う場合の難易度や子宮内膜症の重症度、癒着の有無など)が重要である。重症子宮内膜症や巨大子宮頸部筋腫・骨盤内に対して MRI ゼリー法や経膈エコーによって術前に正確に評価することに努め、患者のライフスタイルや人生設計などを考慮しながら、治療法を検討し、手術をする場合には、その時期や術式、術後の薬物治療(不妊症の場合には術後の治療内容や計画)についても十分検討している。

一般的に婦人科良性疾患の手術は、悪性腫瘍と異なり生命に関わることは少ないと思われるが、大きな腫瘍や癒着を伴うものが多く、意外にも難易度の高いものが少なくない。また、妊孕性温存手術では、将来の妊娠出産のための丁寧に手術するべきであろう。現在の腹腔鏡下手術は開腹手術に比べて腹腔内臓器や病変を拡大して観察することで細かな手術操作ができるところが大きく優れている。私たちは単に傷が小さいだけではなく、精細な操作によって身体に優しい(出血が少なく、できるだけ術後癒着のない)手術内容を目指している。

### 『スタッフ』

松本貴 副院長兼婦人科部長(2006 年 4 月入職)

細川有美 婦人科医長(2019 年 4 月入職)

相本法慧(2023 年 4 月入職)

津田洋之介 (2025 年 4 月入職予定)

### 『2025 年の目標』

2024 年は医局人事等の影響もあり、常勤医師が一名減となった影響もあり、手術症例数は若干減少することになったが、最小限に留めることができた。2025 年は常勤医師を一名増員することができたので手術件数を増加させることができるよう努めていきたい。

2024 年 7 月には西梅田ラパロセミナー2024 を院内で開催し、技術認定を目指す若手の産婦人科医師 25 名に参加していただき 10 月に『大人のための縫合結紮セミナー』を開催した。2025 年は 8 月に西梅田ラパロセミナー2025 を、7 月から 11 月の間に JUMP for TLH を開催する。また、オンラインでも西梅田ラパロセミナーや医療機器メーカーのウェビナーでの講演・ビデオクリニックを行う予定である。

## 2. 診療実績

2024年

外来患者数 5,474人

初診患者数 475人

入院患者数 1,937人

婦人科手術実績

		2,024
手術総数		308
腹腔鏡下子宮全摘術		131
	うち深部子宮内膜症を含むもの	13
腹腔鏡下子宮筋腫核出術		69
腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術	卵巣嚢腫核出術	93
	子宮附属器摘出術	58
腹腔鏡下卵管摘出術		21
腹腔鏡下子宮内膜症病巣切除術 (子宮全摘術を伴わないもの)		11

## 3. 業績

### 【学会】

1. 松本貴：「The microsurgical approach for endometriosis -腹腔鏡下手術の安全をささえる” Minimally Invasive Electrosurgery” -」：第45回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会；2024年1月21日；東京都新宿区
2. ランチョンセミナー3 「レルミナは子宮内膜症の手術をどう変えるのか？ -子宮内膜症根治手術とRelugolix challenge test-」：第75回日本産科婦人科学会学術講演会；2023年5月12-14日；東京都千代田区
3. 細川有美，松本貴，天雲千晶，相本法慧：「巨大子宮筋腫はレルゴリクスで本当に小さくなるのか？」；第76回日本産科婦人科学会学術講演会；2024年4月20日；横浜市
4. 山口純子<sup>1)</sup>，松本貴：「LEPが奏効しない月経前症候群・月経困難症を改善させた1例」：第65回日本心身医学会；2024年6月30日；東京都千代田区 1) 解説カイロプラクティック
5. 松本貴，相本法慧，天雲千晶，細川有美：セッション13 肥満患者への手術の工夫「肥満患者に対する腹腔鏡下子宮筋腫核出を安全・快適に行うための工夫」；第36回日本小切開・鏡視外科学会；2024年6月6日；東京都千代田区

6. 山口純子<sup>1)</sup>, 松本貴: 「“お互いの感情を言葉で伝えあう” ことで機能性月経困難症が改善した1例」; 第52回日本女性心身医学会学術集会 ; 2024年9月1日; 東京都文京区 1) 読解カイロプラクティック
7. 松本貴, 相本法慧, 天雲千晶, 細川有美: 「腹腔鏡下手術の指導者に対するSSDコーチングの試み」; 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2024年9月12日; 東京都千代田区
8. 天雲千晶, 松本貴, 相本法慧, 細川有美: 「巨大子宮TLHにおいて手術時間に影響を与える因子の検討」; 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2024年9月12日; 東京都千代田区
9. 相本法慧, 松本貴, 天雲千晶, 細川有美: 「Safety of transvaginal retrieval in patients undergoing total laparoscopic hysterectomy without previous vaginal delivery」; 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2024年9月13日; 東京都千代田区
10. 細川有美, 松本貴, 相本法慧, 天雲千晶: 「腹腔鏡下子宮全摘術症例で巨大子宮をどこまでin-bag morcellationで回収できるか?」; 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2024年9月13日; 東京都千代田区
11. 松本貴, 相本法慧, 細川有美: 「原因不明の治療抵抗性慢性骨盤痛の一例」; 第39回日本女性医学会学術集会; 2024年11月9日; 宇都宮市
12. 松本貴, 相本法慧, 細川有美: 「TLH困難例に対する子宮頸部周囲の処理」; 第47回日本産科婦人科手術学会; 2024年11月24日; 岡山市

#### 【講演会】

1. 松本貴: 「レルゴリクスとLM・TLH -術者にとっても患者にとっても快適で効果的な術前投与とは? : 兵庫県の女性疾患診療を考える会; 2024年1月13日; 神戸市 ハイブリッド
2. 松本貴: ハンズオンビデオレクチャー『子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術 -「手術ができる」ということはどういうことなのか?-』; 腹腔鏡下指導者の立場からのビデオクリニックディスカッション; 2024年3月1日; 新潟市
3. 松本貴: Upstream ウェビナー よくわかるTLH「巨大子宮腫瘍に対するTLH」; 2024年3月7日; オンライン (Zoom ウェビナー)
4. 松本貴: シリーズ TLH 困難症例～すべての先生に伝えたい～; 2024年4月5日; 大阪市 (Zoom ウェビナー)
5. 松本貴: 「レルゴリクスは子宮内膜症の治療をどう変えたのか?」: レルミナ錠40mg 発売5周年記念講演会; 2024年5月28日 ; 札幌市 ハイブリッド (Zoom ウェビナー)
6. 松本貴: Upstream ウェビナー よくわかるTLH「子宮頸部筋腫」; 2024年6月1日; オンライン (Zoom ウェビナー)

7. 松本貴：Upstream ウェビナー よくわかる TLH；「子宮内膜症 -尿管周囲-」；2024 年 8 月 26 日；オンライン（Zoom ウェビナー）
8. 松本貴：Upstream ウェビナー よくわかる TLH；「子宮内膜症 -ダグラス窩-」；2024 年 11 月 14 日；オンライン（Zoom ウェビナー）

**【講演会（当院主催）】**

1. 第 18 回西梅田婦人科ラパロセミナー（テーマ：脱にならない膣断端縫合），2024 年 12 月 21 日，Zoom ミーティング

# 眼科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

地域の病診連携に於いて緊急手術および入院の要請に確実に応えられるようにしている。

2020年度から大阪大学眼科医局派遣医師による当院健康管理センター施行の一般・特殊健診・ドック等での眼底写真の一次読影、色覚検査の判定を行っているが、眼底写真の二次読影は引き続き眼科スタッフで行っており、電離放射線健診における水晶体検査も眼科外来に於いて眼科スタッフで施行している。月曜外来は大阪大学眼科医局から健康管理センターへの派遣医師が兼務している。2023年1月に新規導入した広角眼底カメラを活用し、無散瞳診察の患者に対しても積極的に周辺部網膜病変の検索をし、特に網膜剥離の早期発見・早期治療につなげていく。

### 『スタッフ』

医師 常勤 井上由美子  
非常勤 塚本裕次 塚本浩子 長谷川琢也  
視能訓練士 常勤 蔵重聡美 植松陽香

### 『2025年の目標』

- ・本格的にアフター・ウイズコロナ体制とし、手術増患に対応していく。
- ・無散瞳広角眼底カメラで検出した無症状網膜裂孔に対しての光凝固治療件数を増やす。

## 2. 診療実績

2023年		2024年	
外来患者数	6,007	外来患者数	5,553
初診患者数	684	初診患者数	618
入院患者数	1,045	入院患者数	1,081

2023年手術		2024年手術	
水晶体再建術	311	水晶体再建術	313
硝子体茎微鏡下離断術	151	硝子体茎微鏡下離断術	103

# 耳鼻咽喉科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当院耳鼻咽喉科では紹介状なしでも診察時間内であれば受診されたすべての患者様を診察するよう心がけています。頭頸部・咽喉頭・鼻腔領域では、血液検査、ファイバー検査、CT 検査、MRI 検査、超音波検査などで腫瘍、感染疾患に対応しています。内耳領域では、聴力検査、ティンパノメトリー、重心動揺検査、ENG 検査、前庭誘発筋電位（VEMP）、シェロング試験、CT 検査、MRI 検査（内耳造影 MRI は協力病院にて施行可能）など大学病院にも劣らない設備で内耳疾患に対して精査をすることができます。

### 『スタッフ』

常勤医 1 名（白石 功）で日々の診療に携わっています。

### 『2025 年の目標』

2025 年度も引き続き現状を維持しつつ、疾患管理に努めてまいります。

## 2. 診療実績

めまい検査、難聴検査を水曜日以外毎日行っています。APD に対する APT 検査も長期間待つことなく行えます。

2022 年		2023 年		2024 年	
外来患者数	3,513	外来患者数	3,758	外来患者数	3,079
入院患者数	86	入院患者数	25	入院患者数	25
めまい・難聴検査件数	195	めまい・難聴検査件数	180	めまい・難聴検査件数	150

# 放射線科

## 1. 概要

### 『部署の方針と特徴』

病院理念に基づき、放射線科ではインフォームド・コンセントを尊重し、患者様・受診者様へ安全で、安心できる検査を提供します。また、放射線を取り扱う専門職として、被ばく線量低減に務め、知識・技術を患者様・受診者様へ還元するために自己研鑽を積んでいます。

院内のみならず、地域医療機関からの検査依頼を積極的に受け入れ、第一線の地域医療を担うかかりつけ医の皆様へ質の高い画像と診断を提供いたします。

### 『スタッフ』

放射線科部長 森田 吉多佳 日本専門医機構 認定放射線科専門医

診療放射線技師 19名

### 『2025年度の目標』

全診療科の診療患者、健診受診者からの検査依頼に対して迅速な CT、MRI 検査等を実施し、検査後速やかに診断レポートを提供しています。2024年度の部門別全検査前年度比では健診部門 112%、診療部門 104%、地域医療機関からの病診連携を介した大型医療機器検査では、前年度比 CT 検査 102%、MRI 検査 104%、その他の全体検査を含むと 167%となり増加。

前年度の3月から3Dマンモグラフィー搭載装置を導入、2025年4月より健診、診療部門の全胸部レントゲン画像にAI画像診断支援解析を実施予定。これらの装置、アプリケーションを用いて更なる医療サービス向上を目指す。

今後も柔軟な対応を心がけ PR 活動を行いながら地域の先生方と密に連携し、医療レベル向上に寄与していきたい。患者様・受診者様に対しては丁寧なコミュニケーションを取り、安心・安全な医療を目指すべく日々努める。

## 2. 診療実績

健診部門検査件数

項目	2023年度	2024年度	前年度比
一般撮影 (胸部)	59,528	66,137	111%
CT検査 (胸部)	878	916	104%
MRI検査 (頭部)	869	961	111%
マンモグラフィー	7,272	8,077	111%
胃透視検査	13,287	15,073	113%
骨密度	1,248	1,459	117%

診療部門検査件数

項目	2023 年度	2024 年度	前年度比
一般撮影	10,865	11,453	105%
CT 検査	4,725	4,781	101%
MRI 検査	3,509	3,596	102%
マンモグラフィー	427	413	97%
透視検査	620	677	109%
骨密度	791	914	116%
心臓カテーテル検査	642	652	102%
病診連携 CT 検査	67	99	148%
病診連携 MRI 検査	190	212	112%

放射線科外来件数

2023 年度	2024 年度	前年度比
944	1,048	111%

### 3. 業績

【学会・研究会】

・尾崎雄, AI 技術導入による MRI 検査数増加の試み, 第 65 回全日本病院学会 in 京都, 2024 年 9 月 29 日, 国立京都国際会館(京都府京都市)

【各種認定資格者】

日本専門医機構認定放射線科専門医 1 名  
 検診マンモグラフィー撮影認定技師 7 名  
 X 線 CT 撮影技師認定技師 5 名  
 日本消化器がん検診学会胃がん検診専門技師 3 名  
 胃 X 線読影補助認定技師 2 名  
 肺がん CT 検診認定技師 1 名  
 血管造影 (IVR) 技師認定技師 1 名  
 救急撮影認定技師 1 名  
 日本磁気共鳴専門技術者認定機構 MRI 専門技術者 1 名

※重複取得あり

【施設基準】

画像診断加算 2 取得施設

# 麻酔科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当科の方針は、手術患者の術前評価を的確に行い、麻酔合併症を起こさないことです。

1階入退院センターに術前外来を設け、麻酔説明ビデオ視聴、麻酔科医診察、手術看護師説明を行い、そのうえで、患者様に一番適した麻酔法、術式を計画しています。

手術室には、腹腔鏡に適した人工呼吸のできる最新の麻酔器を導入しています。

また、手術患者様の不安の多くは、手術後痛いのではないかとこのころにあります。麻酔科医、薬剤師、看護師など多職種からなる「術後疼痛管理チーム」を結成し、よりよい術後疼痛管理ができるように努めています。

当院は、麻酔科医全員が、麻酔科専門医であり、質の高い麻酔を提供し、患者様の安全安心を一番に考えています。

### 『スタッフ』

麻酔科部長	早助弓子	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
中央手術部部長	萬代裕子	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	朝倉芳美	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	松田千栄	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	春日千春	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医

### 『2025年度の目標』

術後疼痛管理チームの活動拡大、周術期口腔機能管理の対象患者の拡大の二つを目標にします。

## 2. 診療実績

2023年		2024年	
麻酔科管理手術件数	1,096件	麻酔科管理手術件数	1,144件
婦人科	345件	婦人科	308件
整形外科	357件	整形外科	438件
外科	214件	外科	211件
泌尿器科	180件	泌尿器科	187件

整形外科の麻酔科管理手術が大幅に増加し、2024年は2023年より麻酔科管理手術数が48件増加した。

# リハビリテーション科

## 1. 概要

### 『当科の方針と特徴』

当課は、整形外科の膝関節・股関節・肩関節の術後（関節鏡、人工関節置換術など）リハビリテーションを中心に行っている。膝・股関節人工関節置換術後のリハビリテーションでは、2020年からロボットリハビリテーション（OG 技研：フィジボゲイト）を導入し、安定した歩行能力の早期獲得を目指している。患者様の動作パフォーマンスの向上やスポーツ復帰を希望される方への運動指導として、競技特性に応じた各種トレーニングやピラティス専用器具を使用した運動療法も行っている。また、患者様支援アプリ（マイモビリティ）を導入して術前～術後～退院後リハビリテーションのデジタル化を推進し、患者様満足度の向上に取り組んでいる。

### 『スタッフ』

リハビリテーション科 部長 坪田 次郎（副院長）  
リハビリテーション課 係長 平野 弘臣  
吉田 昌広、大村 貴子、秋山 恵津子  
益原 理緒、長廻 雄大、高橋 由依

### 『2025年の目標』

リハビリテーション技術と接遇力を磨き、患者様から選ばれるリハビリテーション課を目指す  
リハビリテーションのデジタル化を推進し、患者様満足度の向上を目指す

### 『施設基準認定』

運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）

## 2. 診療実績

リハビリ実施件数（外来・入院）

外来患者件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年	108	130	140	124	120	98	109	91	95	66	60	68	1,209
2024年	76	88	85	113	98	112	130	87	93	102	79	87	1,150

入院患者件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年	839	814	940	841	825	722	755	848	825	692	758	813	9,672
2024年	834	967	947	1,028	1,039	1,012	1,107	999	1,093	884	967	999	11,876

## 3. 業績 その他の活動

### 【学会発表】

- 平野 弘臣：職員向け健康増進運動教室（ピラティスレッスン）の実際：第65回全日本病院学会 in 京都；2024年9月28-29日；京都府京都市

### 【院内活動】

院内職員向けの福利厚生として「健康増進運動教室開講中（ピラティスレッスンなど）」

# 薬剤課

## 1. 概要

### 『部署の方針と特徴』

「医療の担い手として生命を尊重し、患者様の安全と安心に貢献し、適切な薬物治療を提供します。」を薬剤課の理念とし、業務に取り組んでいる。薬剤管理指導業務は投薬のある入院患者様に対し前年度同様 2024 年度も実施率ほぼ 100%を維持する。ペリオ外来は昨年泌尿器科を拡げ年間総合計は昨年の 137%と増加し多くの患者様と入院前から関わっている。「タスクシフト」における薬剤師の役割も話し合い、治療が安全に進むよう業務に携わっている。

### 『スタッフ』

薬剤師 10 名・事務員 1 名

### 『2025 年の目標』

薬剤課理念に基づき、チーム医療の一員として薬物治療に貢献していく。

## 2. 診療実績

### 処方箋枚数

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
外来院外	5459	5240	5139	5514	5066	5027	5590	4960	5441	4932	4747	5185	62300
外来院内	5	4	3	9	3	7	9	4	10	6	6	5	71
外来注射	323	305	310	332	317	288	327	313	297	303	309	333	3757
入院処方	3292	2873	3160	3371	3039	2865	3245	2798	2852	2717	2647	3114	35973
入院注射	1053	936	912	1088	913	872	1002	887	929	953	793	854	11192

### 薬剤管理指導算定件数

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
指導件数	702	613	642	698	591	616	680	582	588	557	557	630	7456

### 無菌調剤件数

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
抗癌剤	8	7	12	14	16	20	14	12	10	7	6	11	137
その他	14	14	10	16	13	11	12	9	12	12	13	11	147

### ペリオ外来件数

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
外科	14	15	12	17	13	11	11	14	22	14	16	15	174
整形外科	47	46	38	51	32	25	35	42	25	40	30	39	450
泌尿器科	16	16	15	20	18	10	15	16	15	14	11	22	188

### 3. 業績

【発表】長谷川千依乃、竹内千里、山本真大、柳光司：SGLT2 阻害薬の興味ある副作用 第 30 回中之島循環器・代謝フォーラム；2024 年 9 月 14 日；大阪市

# 臨床検査課

## 1. 概要

### 『部署の方針と特徴』

部門のモットーは「正確な検査結果を迅速に提供する」であり、その為にチームワークを何より大切としている。

・人員面では、2024年4月に新卒者の臨床検査技師を1名採用した。臨床検査技師の退職者が2025年3月に2名あった。また9月に眼科外来の視能訓練士と検査員の退職者が3名あり、11月に正職員として視能訓練士を1名採用した。

・検体検査室は8月に機器更新として、尿素呼気測定装置 POC one PULS を1台、血糖測定装置 GA09 II α 及びヘモグロビン A1c 測定装置 HLC-723GR01 連結装置 2式を更新（FMS 契約による）した。凝固検査では10月から FDP 検査と11月にクロスミキシング試験検査を院内化して検査体制の向上を行った。

・病理検査室では6月に細胞診標本作製装置 Thinprep5000 を更新、スライドプリンターレグルスを導入して細胞診の業務向上を行った。スライドプリンターと連動する事により、作業手順の迅速化や検体の取違い防止対策として医療安全対策の向上にも繋がった。

・生理検査室では4月から NO 検査を開始した。

・外来眼科検査室では角膜内皮細胞撮影装置 EM-4000 と光学式眼軸長測定装置 OA-2000 を更新導入した。また、健康管理センターのデジタル眼底カメラ CR-2AF 1台を更新導入した。

・認定資格については、細胞検査士1名、医療安全管理者1名、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会修了者2名が取得となった。

・教育面では、5/13～6/21に臨地実習生2名（長浜バイオ大学）を受け入れた。

・7月に参加した日本医師会精度管理調査の結果は97.9点となり、良好な結果であった。

・災害医療対応車両 Medical-ConneX 搭乗員2名は赤穂中央病院および東京曳舟病院でのメンテナンス習得や此花区防災イベントに参加した。

### 『スタッフ』

課長 坂東 雅彦 係長 高田 みか子

（正職員）臨床検査技師 36名、視能訓練士 3名

（準職員）臨床検査技師 2名、視能訓練士 1名 （パート）視能訓練士 3名

（非常勤）病理医 2名

### 【認定資格取得状況】

超音波検査士 12名 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理技師 2名、細胞検査士 4名

国際細胞検査士 2名 認定輸血検査技師 1名 認定血液検査技師 1名

二級臨床検査士 9名（循環生理学、免疫血清学、血液学、臨床化学、病理学）

緊急臨床検査士 9 名 総合健診指導士 1 名 日本乳がん検診 (A・B 評価) 4 名  
 AMAT 隊員 2 名 臨地実習指導者 1 名 多職種リーダー研修 1 名 医療安全管理者 1 名  
 タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会修了者 4 名 ※重複取得あり

### 『2025 年度の目標』

「医療安全の徹底、患者さんへの丁寧な対応と情報提供、チームワークの強化と連携」を目標とした。

## 2. 検査実績

昨年度の健診受診者減少が解消され、健診からの検査件数が増えた事で各分野が件数増加となった。また、外来での超音波検査や呼吸機能検査も手術前検査と関連して増加した。

	2023 年度	2024 年度
生化学検査	1, 570, 450	1, 658, 336
血液学検査	157, 036	165, 687
一般検査	194, 603	209, 498
免疫血清学検査	119, 674	128, 442
細胞診検査	15, 451	16, 457
病理組織検査	2, 427	2, 225
超音波検査 (心臓)	3, 157	3, 614
超音波検査 (腹部・表在等)	48, 220	51, 135
呼吸機能検査	18, 040	20, 248
心電図検査	68, 749	75, 542
トレッドミル検査	1, 738	1, 737
ホルター心電図	345	374
血圧脈波・肛門内圧検査	620	588

(単位：件)

## 3. 業績

### 【学会・研究会】

- 山本 真大 循環器領域の検査を学ぼう！心エコーの基礎知識：近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2024：2024 年 4 月 11-13 日；ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター；大阪市北区
- 東 里江子、喜多 伸介、高原 真洋、古里 未結、矢野 裕絵、坂東 雅彦  
 当院の健診で脂肪肝を指摘された受診者への M2BPGi 測定と他の線維化指標との比較：第 73 回日本医学検査学会 in 金沢；2024 年 5 月 11-12 日；石川県金沢市

3. 岡田 愛美、中川 沙彩、山本 真大、高田 みか子、坂東 雅彦、前田 健次  
健診の心電図検査が診断の契機となった発作性心房粗細動の一例：日本総合健診医学会第53回  
大会；2025年1月31日-2月1日；千葉県浦安市

**【座長・司会】**

1. 坂東 雅彦 免疫測定で気を付けているポイント：Wako 関西懇話会；2024年12月7日；  
TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪梅田新道；大阪市北区

# 臨床工学課

## 1. 概要

『部署の方針と特徴』

臨床工学課は、2018年4月より独立し新設された。日々、技術の向上に励み、他職種との連携を深めチーム医療に貢献し、より質の良い医療を患者様・スタッフに提供することを目標に様々な臨床の場に携わっている。

『スタッフ』 医療技術部 臨床工学課 臨床工学技士 4名

## 2. 診療実績

血管造影業務

心臓カテーテル検査・治療、心臓ペースメーカーの植え込み、経皮的カテーテル心筋焼灼術など関連機器の操作、使用材料の管理を行っている。

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CAG	25	24	21	24	25	19	25	25	19	24	26	23	280
PCI	20	24	18	24	10	18	22	14	18	18	16	19	221
PTA	3	1	2	1	2	1	4	0	2	1	3	2	22
ABL	8	8	8	8	6	6	7	8	8	8	8	5	88
PMI	0	0	1	1	1	0	0	1	4	1	1	1	11
他	2	4	3	5	4	2	1	5	1	1	4	4	36
PM外来	14	15	12	16	10	17	15	18	15	13	14	12	171

血液浄化業務

血液透析、血漿交換、LDLアフェレーシス、血液吸着、他特殊浄化を行っている。

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	7	8	2	3	1	0	2	0	1	0	0	0	24
DFPP	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13
LDL-A	21	18	19	20	17	18	20	17	16	16	15	15	212
他	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

### 手術室業務

麻酔器・生体情報モニターをはじめとする ME 機器の管理を行っている。また、手術で使用する専門的な医療機器も操作管理を行っている。

手術支援ロボット（泌尿器科：da-vinci 整形外科：MAKO）

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
Davinci	1	5	1	2	3	3	2	1	2	2	3	2	27
MAKO	26	26	24	27	29	24	26	26	21	22	23	22	296

### 医療機器管理業務

院内の様々な医療機器の保守・修理・点検を行い安全に使用できるよう管理運営している。

輸液ポンプ・シリンジポンプ・セントラルモニター・ベッドサイドモニター・パルスオキシメーター・PCPS・IABP・IVUS など

# 栄養課

## 1. 概要

### 『部署の方針と特徴』

入院患者に対して正しく栄養評価を行い適切な栄養サポートを実践する。栄養指導においては患者個人に見合った食事指導を展開し合併症の進展防止や重症化予防につながるよう取り組んでいる。

### 『スタッフ』

管理栄養士 4 名（糖尿病療養指導士 3 名、病態栄養専門管理栄養士 1 名）

給食委託会社スタッフ（管理栄養士 2 名、栄養士 2 名、調理師 2 名、調理作業員 13 名）

### 『2025 年の目標』

栄養介入が必要な患者に対して多職種と共同して栄養管理を行い、栄養状態の維持および改善に努める。生活習慣病管理指導、糖尿病透析予防指導等の個別栄養指導において CDEJ の資格を活かしたより専門的な内容を展開し、CDEJ 看護師、医師とチームで活動することによって疾患管理に貢献していく。栄養介入で得られた結果を臨床データとともに分析し、日々の栄養管理、栄養指導業務に反映させる。

## 2. 診療実績

### 2024 年度栄養指導実績

(単位：件)

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
入院	93	95	102	112	92	82	91	87	66	72	65	70	85
外来	106	99	132	126	102	133	122	125	140	109	101	130	118
集団指導	2	1	3	3	2	0	0	3	4	4	6	8	3

### 2024 年度特食加算

(単位：%)

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
特食加算	30	24	30	36	39	40	39	34	27	29	32	30	33

### 3. 業績

#### 【学会発表】

1. 天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、山木香名、南 雄三、伊賀宏美、中西貴子、  
奥谷美栄子、竹内千里、美内雅之  
肥満2型糖尿病症例における栄養状態（%BCM）別にみた栄養指導効果  
～短期間での評価～  
第67回日本糖尿病学会年次学術集会

# 看護部

## 1. 概要

### 『部署の方針と特徴』

看護部の理念は「共にあゆむ最善の看護」で、大切にしていることは安全で良質な看護を提供することです。看護部の基本方針は「個別性を大切にする看護」、「チーム医療の推進」、「自己研鑽と意識改革」です。入院の8割以上が手術目的で、平均在院日数が短く回転率が高いため看護にはスピードを求められます。24時間の救急はなく夜勤帯の緊急入院が少ないことも特徴です。

『スタッフ構成』 看護師 病棟：65名（平均年齢：37.6歳） 外来その他：85名（産・育休含む）

平均在職年数：8.7年（2024年度：離職率11.0%）

看護補助者：14名 内視鏡洗浄員：5名 中材滅菌洗浄員：6名

### 『看護体制』

急性期一般入院料1（7：1）重症度、医療・看護必要度Ⅱ

2交替制（病棟）固定チームナーシング受け持ち制

看護職員夜間配置加算（12対1加算1）

25対1急性期看護補助体制加算（看護補助者5割未満）看護補助体制充実加算1

### 『看護実践面』

認知症ケア加算3 せん妄ハイリスク患者ケア加算

入退院支援加算2・入院時支援加算2 患者サポート体制充実加算

術後疼痛管理チーム加算

排尿自立支援加算（2024年4月取得）外来排尿自立指導料（2024年12月）

糖尿病透析予防指導管理料

生活習慣病管理加算（2024年6月）

### 『2025年の目標』

- 急性期入院基本料1の基準遵守と維持/身体的拘束予防と最小化/ACP周知
- 看護補助者へのタスク/シェア・看護業務の改善/人員確保と定着
- 安心・安全な医療の提供/転倒事故予防/褥創発生予防/感染拡大の備え
- 外来看護機能の強化/重症化予防のための在宅療養支援
- 市北支部訪問看護STとの看看連携/看護の日「ふれあい看護体験」運営
- 新卒・中途採用者教育/管理者・実習指導者育成/専門分野の教育
- 病床稼働率の上昇
- 人件費の削減/超過勤務時間の削減/会議時間の短縮
- 適切な人員配置/OP室のME常駐

看護必要度（%）

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A3点C1点			47.7	47.5	49.4	47.5	47.5	49.7	50.0	46.6	47.3	50.5
①3カ月平均					48.2	48.1	48.1	48.2	50.9	48.9	48.1	48.2
A2点C1点			48.5	48.5	51.5	48.6	48.0	51.3	49.0	48.7	48.1	50.7
②3カ月平均					49.5	49.5	49.3	49.2	50.0	50.3	49.3	49.2

## 2. 委員会活動実績

	目標	実績
看護教育委員会	1. 当院実施事業とキャリアラダーに応じた院内教育研修を企画・運営する	キャリアラダー別と共通研修で設定し11項目全ての研修を開催できた。延べ111名が参加し、配信研修以外にグループワークや演習で深い理解に繋がった。研修担当の役割、PCプロジェクターの取り扱いを伝達した。e-ラーニング総アクセス率76.9%、平均視聴時間3.5時間。
	2. 研修と自己学習に意欲的に取り組めるよう教育的環境を構築する	
	3. 看護研究発表会開催	
安全推進委員会	1. インシデントレポートを分析・共有し看護実践に活かす	毎月各部署のインシデントからレベル3a以上の症例に絞り意見交換を行い、交流会やWeb会議内容を共有した。身体拘束に関する配信研修とグループワークを実施した。また隔月刊誌を回覧し最新の知見を得た。身体的拘束最小化マニュアルとアセスメントシートの作成、同意書を改訂し毎月カンファレンスを実施した。
	2. 知識を深め潜在的な危険に気付く力を身につける	
	3. 身体的拘束最小化に向けてマニュアル改訂を行う	
看護記録委員会	1. 記録監査を再導入し看護の質の向上を目指す	各部署での記録監査を実施し委員会で意見交換を行った。監査結果から周知すべき内容のポスターを4枚掲示した。メンバー間で1事例の監査を実施した。サインはフルネームでテンプレート変更、ペースメーカーは禁忌情報、短期入院のアドメ作成、ACPの標準看護計画作成。
	2. 記録委員の監査力の向上	
	3. 記録に関わる現状での問題点を解決する	
感染リンクナース会	1. 現状に沿った感染対策を共有する	ICTラウンド（年6回）全員が交代で参加。看護補助者に手指衛生のタイミングを指導。手指衛生の観察評価表の作成。ゴミ廃棄場所の変更。手指消毒剤の計測と評価。薬剤耐性菌対応の検討会実施。感染検討会の開催。院内感染対策管理マニュアルの照合。
	2. 活動結果を手順やマニュアルにつなげる	
実習指導者会	1. 2世代及び多様性ある学生のレベルを把握し支援ができる	大阪医専：基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・統合実習を総数56名受け入れ臨地実習指導を実施。配慮が必要な学生の情報等を教務と事前に情報共有した。実習要綱に沿って説明・伝達・指導を実施。5月に臨地実習指導者研修修了者による学習会を行った。
	2. 実習指導担当者と知識を共有し互いに成長することができる	
看護係長会	1. 新人看護職員教育システムの充実	新採用者オリエンテーションスケジュール表の様式を変更。土曜半日で実技研修を4回実施。「院内研修アンケート・自己評価シート」作成。新採用者オリエンテーションファイル見直し。2年目看護師のケーススタディ発表会開催。面接時期の変更、評価ツール簡略化。中途採用者支援マニュアル改訂。
	2. 中途採用者の支援マニュアルの改訂	
看護補助者会	1. 看護チームにおける協働の仕組み作りと日常業務での問題点を解決できる	看護補助者業務手順/マニュアル改訂。周辺業務と直接業務を追加。業務指示書改訂。業務チェックリスト作成。補助者ラダー作成。看護補助者の活用研修会実施。業務範囲の拡大検討。インシデント報告方法の周知。年12回のe-ラーニングとマニュアルを活用し、全員が体験演習を4回実施した。
	2. 看護補助者業務に必要な知識・技術が習得できる	

### 3. 臨地実習指導実績

大阪医専看護専門学校（高度看護保健学科）

実習科目	学年	実習期間	人数	総人数	実習指導者数	
統合実習	第4学年	5/27～6/7（10日間）	11名	56名	20名	左記人数の内
統合実習	第3学年	2/17～3/3（10日間）	7名			
基礎看護学実習Ⅰ	第1学年	7/8・7/9（2日間）	15名			
基礎看護学実習Ⅱ	第2学年	6/17～6/25（6日間）	15名			講習終了者11名
基礎看護学実習Ⅲ	第2学年	11/5～11/20（10日間）	8名			

### 4. 看護研究実績

- ・第65回全日本病院学会（京都）口演発表 2024年9月  
「軟性膀胱鏡検査を受ける患者の音楽によるストレス軽減効果への試み」外来看護課
- ・第5回伯鳳会グループ学術発表会（大阪） 2024年10月  
「急変時シミュレーションの効果-急変事例の振り返りを通して-」11階病棟課

# 健康管理センター

## 1. 概要

### 『健康管理センターの方針と特徴』

2023年度は伯鳳会グループの健診機関として6ヵ月間の協会けんぽ生活習慣病健診受け入れ停止処分を受けたことなどにより、総受診者数は63,568人（人間ドック受診者数15,680人）と減少した。さらに、2024年度は常勤医師2名の急な減員という厳しい状況の中でのスタートとなった。ただし、医師間の協力、絶え間ない営業や広報活動などスタッフ全員の懸命な協力や努力によって、総健診受診者は前年度を7,000人以上も上回る70,576人と大幅な増加となった。

当センターは総合病院併設型の健診施設で計3フロアから構成され、受診当日に結果説明・保健指導を実施する人間ドックを6F・8Fで、当日の結果説明は実施されないが必要な受診者に対して受診勧奨・保健指導が行われる一般健診を8F・9Fで行っている。

2000年以降の健診データ、2008年以降の画像・心電図データはすべてサーバーに保管されており、必要時に過去データの参照が常に可能であることが健診・検診精度の向上に寄与している。さらに病院併設型健診施設のため各診療科との連携が緊密であることにより、要受診・要精密検査と判定された受診者の診療科外来予約が容易・円滑となっている。また、診療科外来と健診部門で共通の受診者IDを使用していることから、診療科外来への紹介状作成・受診者データ伝達および健診部門における診療科外来受診結果の把握が円滑に行われている。さらにドック当日に医師から直接外来予約をとる方法を強化したため、健診から各診療科外来への紹介患者総数は、2024年度は3,876名と昨年より大幅に増加、外来初診患者総数7,428名のうち健診からの紹介は52%とかなり高比率となった。健診医師から各診療科外来への直接紹介も487名から1007名と倍増以上となった。

当センターの運営方針は、受診者の皆様に「信頼」され「納得」いただける健診・検診を「平等」に提供することであり、そのために全職員が常に受診者に対する共感力と自己に対する向上心を持ちながら受診者ひとりひとりにしっかりと寄り添う健診・検診施設であり続けることを目指している。また、「要受診・要精密検査」の判定がなされた場合の精神的負担（特にがん検診で顕著となる）および精密検査受診の際に生じる経済的・時間的負担などの健診・検診の「不利益」を可及的に最小化するため、受診を希望される検査の選択を判断する際に必要となる情報を医療面接・ホームページ含め十分に提供するとともに、健診・検診における要精密検査率を許容範囲内とするため、検査を実施する技師および結果を判断・説明する医師の多くが関連学会・機構から健診・検診を実施するにおいて必要とされる資格を取得・更新しており、かかる資格取得を推奨・サポートする体制を施設としても整えている。さらに、健診・検診の質を客観的に評価して質の向上に反映させるため、学会および健診関連各種団体の精度管理調査・全国集計調査および優良施設認定審査に積極的に参加している。

### 『健康管理センターのアピールポイント』

### ① 脳ドックプレミアムコース

脳卒中（くも膜下出血・脳梗塞・脳出血など）の発症リスク評価、潜在している脳腫瘍の発見、物忘れ（良性加齢性健忘/本物の認知症/治療で治る認知症か？）の鑑別を行い、受診当日に担当する脳神経外科専門医/脳神経内科専門医が総合評価について説明を実施している。

### ② 心臓ドック

冠動脈狭窄に起因する心筋虚血の有無を評価する運動負荷心電図検査、心臓弁の状態および心機能を評価する心臓超音波検査、全身の動脈硬化の状態を評価する頸動脈超音波検査、血管年齢の推定が可能な血圧脈波検査および各種心臓バイオマーカー血液検査結果を評価して、受診当日に循環器専門医が総合評価について説明を実施している。

### ③ 女性専用フロア設定

人間ドックでは第1金曜日午前・第2土曜日を、一般健診では第3金曜日午後を女性受診者のみが受診できる女性専用フロアとして設定しており、ドック結果説明と胃透視・胃カメラ検査を除くすべての検査を女性医師・技師が担当している。

### ④ 最新の上部内視鏡検査（胃カメラ）システムと胃がん発症リスクに基づく胃透視検査

胃カメラ検査では検査時に胃がん病変を発見することだけでなく、胃がん発症の危険因子であるヘリコバクターピロリ菌感染の有無を胃炎京都分類に従い判断することが重要であるため、当センターでは2018年5月より富士フイルムメディカル社の新しい内視鏡システム（FUJIFILM LASERE07000）と上部消化管用経鼻内視鏡（EG-L580NW7）を導入した。通常観察の白色光に加えて2種のレーザー光、すなわち粘膜表面の毛細血管の構造を強調するBLI(Blue Laser Imaging)および粘膜表面の赤色領域と周囲のコントラストを強調するLCI(Linked Color Imaging)の3種類の画像を組み合わせることで、より高い精度の診断が可能となっている。さらに、本年度からAIによる内視鏡画像診断システムも導入した。

また、上部消化管検診として現在なお重要な役割を果たしている胃透視（バリウム）検査においても、胃がん発症の危険因子であるヘリコバクターピロリ菌感染・除菌歴の有無を反映させた所見および判定結果の提示を行っている。

### ⑤ 健診誘導支援システムの導入

2019年5月より、受診者がより快適に健診・検診を受診していただけるよう各検査での待ち時間の短縮を目的として、各検査終了時に待ち時間の少ない次の検査へご案内することを可能とする誘導支援システムを導入した。さらに、当センターは3フロアから構成されており同じ検査を実施する検査室が各フロアに分散するため、検査の待ち時間の短縮と同時にフロア間の移動をできるだけ少なくすることについても配慮されるよう設計されている。

#### ⑥ 「AI 疾病予測」サービス開始

テーラーメイド健診の構築を目的として各受診者の健診結果に基づく受診者ごとの将来の疾病発生予測 AI システムを導入した（オプション）。

#### ⑦ 施設認定について

- ・ 人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・ 健康評価施設査定機構認定施設
- ・ 人間ドック健診専門医制度人間ドック健診研修施設
- ・ 健保連人間ドック指定施設
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診実施施設
- ・ 大阪市前立腺がん・乳がん・大腸がん検診実施施設、大阪市前立腺がん・乳がん・大腸がん精密検査協力医療機関
- ・ 日本がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設・画像認定施設
- ・ 日本乳癌検診学会 登録認証施設

#### 『スタッフ』

健康管理センター長：弓場 健義

健康管理センター所長：桑迫 崇裕

健康管理センター専従・常勤医師：前田 健次、藤間 美帆、江崎 久男、辻野 晶子、岩本 有里子、倉敷 有紀子、大野 秀樹、大家 学、池上 陽一、北島 孝一、乾 哲也、萬谷 薫、流谷 裕幸、小林 哲郎（特別顧問）

#### 『診療日程』：すべて予約制（詳細はホームページを参照）

- ・ 人間ドック：月～金曜午前、月～第2～5金曜午後、第2・4土曜午前
- ・ 一般健診：月～金曜午前・午後、第2・4土曜午前
- ・ 脳ドック：火曜午後
- ・ 心臓ドック：木曜午後

#### 『2025年度の目標』

これまでどおり受診者に「信頼と納得」いただける健診・検診を「平等」に提供できるよう万全の準備・接遇を継続する。そのうえで2025年度は総受診者数72,000人以上、人間ドック受診者数15,700人以上を達成するとともに、受診者の満足度を反映する指標と考える反復受診率を引き続き80%以上とするため、皆様に「信頼と納得」を実感していただける健診施設であり続けることを目標とする。

健診システムの更新が4月に行われ、さらに満足度の高い健診を提供できると考えている。

胸部レントゲン診断支援 AI システム、3D マンモグラフィー検査も鋭意準備中である。

さらに、人気が高く予約が大変取りにくくなっている上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の受診枠拡大、そしてより快適な受診環境の実現についても健診フロア改装・増設を含め将来に向けて検討中である。

## 2. 診療実績

	2023 年度 (2023/04-2024/03)	2024 年度 (2024/04-2025/03)
人間ドック（半日ドック）	15,546	15,009
人間ドック（1泊ドック）	88	70
一般健診（当日結果説明なし）	47,414	54,769
脳ドック	22	23
心臓ドック	24	19
大阪市がん検診（乳房・大腸・前立腺）	171	260
子宮がん検診（超音波併用）	13,547	14,608
脳 MRI/MRA	869	961
胸部 CT（低線量肺がん検診）	874	916
マンモグラフィー	7,191	7,889
上部消化管造影（胃透視）	13,287	15,072
上部消化管内視鏡（胃カメラ）	16,205	17,442
心電図検査	59,897	66,594
超音波検査	40,454	42,871

## 3. 業績

### 【学会発表】

尾崎 雄 第65回全日本病院学会 in 京都 2024年9月28日（土）～29日（日）

「AI技術導入によるMRI検査数増加の試み」

岡田愛美 日本総合健診医学会第53回大会 2025年1月31日～2月2日 浦安市

「健診の心電図検査が診断の契機となった発作性心房粗細動の一例」

# 医事課

## 1. 概要

### 【部署の方針と特徴】

患者様・健診受診者が安心していつでも当院をご利用いただけるよう、愛情と尊敬をもって接し、常日頃から信頼されるよう最良な対応を心掛けます。またより良い健康サービスを提供するために自己研鑽に努め、グループ・組織へ貢献できるよう常に意識します。

### 【スタッフ】

医事課長 1名 ・ 医事課係長 1名

医事課職員 35名（入院・外来係 24名・診療情報管理係 2名・クラーク係 9名）

### 【2025年の目標】

医事課内における人員適性化（課員の定着率向上・業務の画一化・時間外勤務の削減）

正確な診療報酬算定・返戻、減点防止改善策実施

取得施設基準項目の維持・上位取得・迅速な変更手続き等

## 2. 各科別患者数

単位：人

		2024年度													合計
		内科	消化器内科	循環器内科	内科3科計	外科	整形外科	皮膚・形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科		
4月	入院	123	86	435	644	1,106	803	27	221	156	122	0	59	3,079	
	外来	1,074	579	1,761	3,414	1,709	872	506	1,018	443	506	365	59	8,892	
	合計	1,197	665	2,196	4,058	2,815	1,675	533	1,239	599	628	365	59	11,971	
5月	入院	98	77	316	491	896	839	17	233	158	87	5	80	2,726	
	外来	1,026	579	1,781	3,386	1,767	802	429	979	434	459	326	80	8,662	
	合計	1,124	656	2,097	3,877	2,663	1,641	446	1,212	592	546	331	80	11,388	
6月	入院	148	67	453	668	1,016	771	28	246	174	64	10	66	2,977	
	外来	1,036	605	1,618	3,259	1,635	848	439	936	448	487	340	66	8,458	
	合計	1,184	672	2,071	3,927	2,651	1,619	467	1,182	622	551	350	66	11,435	
7月	入院	102	83	462	647	1,027	796	25	280	186	110	0	78	3,071	
	外来	1,132	613	1,824	3,569	1,795	911	414	1,001	512	474	369	78	9,123	
	合計	1,234	696	2,286	4,216	2,822	1,707	439	1,281	698	584	369	78	12,194	
8月	入院	86	56	397	539	909	854	25	239	172	85	0	67	2,823	
	外来	1,056	642	1,630	3,328	1,676	802	346	909	424	405	256	67	8,213	
	合計	1,142	698	2,027	3,867	2,585	1,656	371	1,148	596	490	256	67	11,036	
9月	入院	65	94	323	482	912	858	26	198	125	87	0	78	2,688	
	外来	1,111	602	1,652	3,365	1,620	858	376	900	385	465	314	78	8,361	
	合計	1,176	696	1,975	3,847	2,532	1,716	402	1,098	510	552	314	78	11,049	
10月	入院	34	98	435	567	1,043	858	42	221	185	77	0	88	2,993	
	外来	1,184	706	1,895	3,785	1,840	884	388	1,072	506	477	383	88	9,423	
	合計	1,218	804	2,330	4,352	2,883	1,742	430	1,293	691	554	383	88	12,416	
11月	入院	56	50	364	470	982	793	11	197	144	81	0	81	2,678	
	外来	1,079	664	1,687	3,430	1,690	802	293	958	412	423	338	81	8,427	
	合計	1,135	714	2,051	3,900	2,672	1,595	304	1,155	556	504	338	81	11,105	
12月	入院	90	65	325	480	1,057	797	5	228	166	77	0	65	2,810	
	外来	1,182	643	1,816	3,641	1,758	717	330	999	471	422	345	65	8,748	
	合計	1,272	708	2,141	4,121	2,815	1,514	335	1,227	637	499	345	65	11,558	
1月	入院	14	104	347	465	926	613	26	232	122	78	5	85	2,467	
	外来	1,089	617	1,659	3,365	1,644	758	284	911	452	359	337	85	8,195	
	合計	1,103	721	2,006	3,830	2,570	1,371	310	1,143	574	437	342	85	10,662	
2月	入院	52	50	397	499	860	722	23	206	158	89	8	83	2,545	
	外来	1,018	578	1,602	3,198	1,550	763	215	929	374	347	308	83	7,767	
	合計	1,070	628	1,999	3,697	2,410	1,485	238	1,135	532	416	316	83	10,312	
3月	入院	102	63	311	476	1,081	746	27	190	185	72	0	73	2,777	
	外来	1,136	677	1,743	3,556	1,729	783	347	1,124	442	354	287	73	8,695	
	合計	1,238	740	2,054	4,032	2,810	1,529	374	1,314	627	426	287	73	11,472	
合計	入院	970	893	4,565	6,428	11,815	9,450	282	2,691	1,931	1,099	28	903	33,634	
	外来	13,123	7,505	20,668	41,296	20,413	9,800	4,367	11,736	5,303	5,178	3,968	903	102,964	
	合計	14,093	8,398	25,233	47,724	32,228	19,250	4,649	14,427	7,234	6,187	3,996	903	136,598	
構成比	入院	2.9%	2.7%	13.6%	19.1%	35.1%	28.1%	0.8%	8.0%	5.7%	3.0%	0.1%	0.9%	100.0%	
	外来	12.7%	7.3%	20.1%	40.1%	19.8%	9.5%	4.2%	11.4%	5.2%	5.0%	3.9%	0.9%	100.0%	
	合計	10.3%	6.1%	18.5%	34.9%	23.6%	14.1%	3.4%	10.6%	5.3%	4.5%	2.9%	0.7%	100.0%	

### 3. 各科別平均在院日数

単位：日

2024年度	内科	消化器内科	循環器内科	内科3科計	外科	整形外科	皮膚・形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
4月	18.0	2.0	3.5	3.9	4.3	20.8	2.4	3.9	5.3	4.7	0.0	5.5
5月	21.1	1.6	2.5	2.9	4.5	19.2	1.8	3.5	5.2	2.5	10.0	5.2
6月	31.8	1.6	3.8	4.4	4.2	17.3	2.8	3.5	5.3	2.8	18.0	5.4
7月	24.3	1.6	3.4	3.6	4.3	18.0	2.1	3.5	5.6	3.7	0.0	5.2
8月	27.7	1.7	3.7	4.0	4.0	16.6	2.8	3.9	5.1	3.6	0.0	5.4
9月	13.3	3.4	2.9	3.4	3.9	20.2	3.1	3.5	5.0	3.7	0.0	5.3
10月	12.4	2.3	3.3	3.2	4.0	17.6	4.5	3.0	5.2	3.3	0.0	5.0
11月	11.8	1.1	3.1	3.1	4.1	20.7	1.2	3.3	5.4	3.5	0.0	5.2
12月	15.3	2.3	2.9	3.4	4.6	18.6	1.5	3.7	5.3	3.6	0.0	5.5
1月	3.7	2.4	3.1	2.9	4.9	20.4	2.3	3.8	5.0	3.4	10.0	5.2
2月	10.7	1.4	4.0	3.7	4.3	18.4	4.2	3.8	5.3	5.0	14.0	5.5
3月	13.7	1.6	2.6	3.0	4.3	18.6	2.4	3.2	5.1	3.3	0.0	5.1
合計	17.0	1.9	3.2	3.5	4.3	18.7	2.6	3.5	5.2	3.6	13.0	5.3

### 4. 各科別診療収入

単位：点

2024年度																		
入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比	前年度計	前年対比		
内科	412,951	302,693	486,357	321,535	268,875	228,965	125,347	225,229	326,379	67,030	210,147	397,707	3,373,215	1.2%	3,825,894	88.2%		
消化器内科	529,714	563,611	442,734	500,640	406,918	522,023	533,157	323,993	403,317	591,246	327,871	486,812	5,632,036	2.0%	7,368,455	76.4%		
循環器内科	5,863,687	5,775,363	6,349,156	6,378,073	4,901,505	5,013,929	6,136,298	5,731,290	5,559,578	5,553,175	5,279,786	5,504,527	68,046,367	24.3%	65,401,559	104.0%		
内科3科計	6,806,352	6,641,667	7,278,247	7,200,248	5,577,298	5,764,917	6,794,802	6,280,512	6,289,274	6,211,451	5,817,804	6,389,046	77,051,618	27.6%	76,595,908	100.6%		
外科	5,990,317	4,676,390	5,221,848	5,402,835	5,025,948	4,840,909	6,067,487	5,266,490	6,065,249	5,051,348	5,257,332	5,568,955	64,435,108	23.1%	61,555,025	104.7%		
整形外科	6,767,751	6,889,713	6,174,047	7,445,686	7,652,875	7,157,213	7,204,033	6,570,022	6,343,027	5,594,408	5,964,158	6,271,155	80,034,088	28.6%	67,344,256	118.8%		
皮膚・形成外科	167,120	126,691	180,338	180,680	138,958	154,258	195,676	88,648	31,354	167,887	128,330	180,227	1,740,167	0.6%	3,371,949	51.6%		
泌尿器科	1,651,999	2,023,886	1,767,737	2,100,397	2,114,484	1,686,051	1,957,402	1,572,005	1,684,823	1,701,649	1,646,410	1,779,200	21,686,043	7.8%	21,075,212	102.9%		
婦人科	1,990,383	2,112,824	2,079,435	2,365,225	2,162,299	1,629,647	2,363,420	1,917,753	2,091,192	1,685,252	2,129,123	2,372,628	24,899,181	8.9%	26,790,378	92.9%		
眼科	1,031,913	882,894	611,543	1,088,505	846,469	821,584	667,872	744,090	713,727	688,756	646,736	792,109	9,536,198	3.4%	12,716,690	75.0%		
耳鼻咽喉科	600	20,532	28,616	768	0	0	768	672	600	21,452	23,434	1,000	98,442	0.0%	151,407	65.0%		
合計	24,406,435	23,374,597	23,341,811	25,784,344	23,518,331	22,054,579	25,251,460	22,440,192	23,219,246	21,122,203	21,613,327	23,354,320	279,480,845	100.0%	269,600,825	103.7%		
外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比	前年度計	前年対比		
内科	1,369,946	1,251,340	1,255,710	1,408,918	1,298,496	1,362,128	1,405,542	1,306,228	1,424,792	1,286,469	1,221,163	1,386,554	15,977,286	12.3%	16,365,351	97.6%		
消化器内科	1,475,490	1,608,268	1,395,452	1,702,205	1,795,876	1,485,146	1,969,642	1,743,319	1,648,962	1,927,091	1,675,306	1,720,200	20,146,957	15.5%	18,182,838	110.8%		
循環器内科	2,959,428	2,936,827	2,804,478	3,315,605	3,066,457	2,741,575	3,146,708	2,828,722	2,993,878	2,706,072	2,788,056	2,962,290	35,250,096	27.1%	33,367,127	105.6%		
内科3科計	5,804,864	5,796,435	5,455,640	6,426,728	6,160,829	5,588,849	6,521,892	5,878,269	6,067,632	5,919,632	5,684,525	6,069,044	71,374,339	54.9%	67,915,316	105.1%		
外科	1,413,524	1,480,325	1,322,120	1,460,051	1,357,232	1,222,879	1,340,436	1,427,198	1,299,577	1,358,490	1,377,419	1,500,468	16,759,719	12.9%	15,727,942	106.6%		
整形外科	1,083,542	1,050,856	976,856	1,079,252	842,317	868,888	922,581	866,686	709,660	890,432	848,157	887,688	11,026,915	8.5%	11,921,193	92.5%		
皮膚・形成外科	257,269	186,649	205,054	206,314	182,817	209,725	207,943	159,199	169,564	140,099	96,405	171,275	2,192,313	1.7%	2,568,715	85.3%		
泌尿器科	1,003,994	997,379	1,066,678	999,816	955,865	984,320	1,015,917	1,051,494	1,049,870	936,218	911,751	1,226,069	12,199,371	9.4%	11,986,428	101.8%		
婦人科	347,839	354,570	331,153	380,760	334,053	291,083	379,879	300,848	378,924	342,488	272,644	340,395	4,054,636	3.1%	4,400,569	92.1%		
眼科	693,847	686,781	642,395	702,500	614,599	628,057	679,873	599,122	532,788	689,277	553,981	493,335	7,516,555	5.8%	8,511,482	88.3%		
耳鼻咽喉科	343,116	332,952	330,491	358,335	284,037	321,308	346,387	337,950	340,023	332,267	274,868	257,046	3,558,780	3.0%	4,230,134	91.2%		
放射線科	43,101	56,551	80,564	93,982	57,446	99,553	101,120	91,781	70,294	114,275	102,428	122,109	1,033,204	0.8%	732,145	141.1%		
合計	10,991,096	10,942,498	10,410,951	11,707,738	10,789,195	10,214,662	11,716,028	10,712,547	10,618,332	10,723,178	10,122,178	11,067,429	130,015,832	100.0%	127,993,924	101.6%		
総合計	35,397,531	34,317,095	33,752,762	37,492,082	34,307,526	32,269,241	36,967,488	33,152,739	33,837,578	31,845,381	31,735,505	34,421,749	409,496,677		397,594,749	103.0%		



# 医療法人伯鳳会 大阪中央病院

## 外来診察担当表

TEL 06-4795-5505(代表)

	月		火		水		木		金		土 第2・4週
	診 午前	診 午後	診 午前	診 午後	診 午前	診 午後	診 午前	診 午後	診 午前	診 午後	診 午前
内科	内 科	4 田邊 和也	4 南雄三	4 南雄三	4 桑迫 崇裕	4 南雄三	4 南雄三	5 北島 孝一 (1・3・5週) 倉敷 有紀子 (2・4週)	5 交代		
	糖尿病・ 内分泌内科	2 小阪 佳恵	2 美内 雅之 糖尿病速断予 防外来	2 美内 雅之	2 山本 香名	2 美内 雅之	2 井上 智香子	2 美内 雅之	2 山本 香名		
	呼吸器内科	5 宮武 明彦	5 宮武 明彦 (13:30~)								
消化器内科	1 岡本 佳子 5 大家 学	1 山本 光成 (13:30~) (健診専用)	1 山本 光成 (13:30~) (健診専用)	1 佐々木 裕 1 佐々木 裕 (13:30~)	1 平田 一郎	1 岡本 佳子 (13:30~) (健診専用)	1 山本 光成	1 佐々木 裕 (13:30~)			
	循環器内科	3 柳 光司 6 西尾 宗高	3 柳 光司 6 西田 義治 5 樋口 理絵	3 柳 光司 6 西尾 宗高	3 梁 美和 6 西田 義治	3 梁 美和 6 西田 義治 (13:30~)	3 柳 光司 6 西田 義治				
外科	消化器外科	1 弓場 健義 3 相馬 大人	1 根津 理一郎	1 弓場 健義 3 安田 潤	1 相馬 大人		3 相馬 大人 /安田 潤	2 相馬 大人 /安田 潤	2 相馬/安田 IC外来		
	乳腺・ 甲状腺外科	1 安田 潤	1 安田 潤 (生検)	3 竹中 玲子 (乳癌外来/生検) 4/14~	1 竹中 玲子 (乳癌外来/生検)		3 竹中 玲子 (乳癌外来)	1 富樫 優紗 (予約制)			
	肛門外科	2 齊藤 徹	2 齊藤 徹	2 三宅 祐一朗	2 竹中 雄也	2 齊藤 徹	2 小野 朋二郎	2 小野 朋二郎			
整形外科	1 坪田 次郎 (一般・膝関節)	1 坪田 次郎 膝関節外来	1 林田 賢治 (一般・肩関節)	1 林田 賢治 肩関節外来	1 藪田 健太郎 (一般・膝関節)	1 坪田 次郎 膝・スゴーツ外来	1 藪田 健太郎 (一般・膝関節)	1 藪田 健太郎 膝関節外来	1 藪田 健太郎 (一般・膝関節)	1 林田 賢治 (一般・肩関節)	
	2 藪野 互平 (一般・股関節)	2 藪野 互平 股関節外来 手術説明・自己血 (予約制)			2 藪野 互平 (一般・股関節)	2 藪野 互平 股関節外来 専門外来(予約制)	2 坪田 次郎 手術説明(予約制)				
	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	
婦人科	1 津田 洋之介 交代 (予約初診) (13:30~)	1 松本 貴 (予約制)	1 松本 貴 手術説明		1 細川 有美 交代 (予約初診) (13:30~)	1 交代	1 交代 (予約初診) (13:30~)	1 相本 法慧 (予約初診) (13:30~)	1 松本 貴 (予約初診・ 特別な予約のみ)	1 松本 貴 (予約初診)	
	2	2 細川 有美 相本 法慧 津田 洋之介			2 手術説明		2 手術説明		2 交代 (予約初診)		
	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	
皮膚科	1 平野 亜由子 (11:00~12:00)		2 月野 暁彦	2	2 月野 暁彦	2 月野 暁彦	2 月野 暁彦		1 平野 亜由子 (11:00~12:00)		
皮膚科 形成外科	2 月野 暁彦								2	1	
泌尿器科	1 木内 寛				1 木内 寛		1 交代		1 惣田 哲次	1 惣田 哲次 (予約制) (精密検査・ 男性不妊・性機能)	1 交代
	2 惣田 哲次		2 交代 (予約制)		2 宮田 勇士				2 宮田 勇士		
ウロギネセンター (予約制)		惣田 哲次 (予約制)				木内 寛 (予約制)				宮田 勇士 (予約制)	
耳鼻咽喉科 /難聴外来						1 補聴器外来 (第2・4週) (予約制)		1 補聴器外来 (予約制)			
	2 北野 公一	2 交代 (めまい・難 聴検査) (予約制)	2 宮本 一宏	2 交代 (めまい・難 聴検査) (予約制)	2 白石 功	2 白石 功 13:30~	2 交代 (めまい・難 聴検査) (予約制)	2 白石 功 (めまい・難 聴検査) (予約制)	2 白石 功	2 白石 功 13:30~	2 山中 敏彰 (12日) (予約制)
脳神経外来/ 脊椎外来			1 高崎 盛生 (1・3・5週) 本郷 卓 (2・4週) 脳神経外来 (予約制) 9:30~		1 川口 正一郎 頭痛外来				1 森脇 崇 13:30~ 脊椎外来 (頸部痛・腰痛・ 成人脊柱変形)	1	
ストーマ外来											大西永里子 (26日)
眼科	2 交代		1 井上 由美子	3 長谷川 琢也 網膜硝子体外来 (予約制)	1 交代		1 井上 由美子		1 井上 由美子		1 交代
			2 野間 沙樹				2 野間 沙樹		2 野間 沙樹		
			3 長谷川 琢也 網膜硝子体外 来(予約制)						3 長谷川 琢也 網膜硝子体外 来(予約制)		
麻酔科 (術前外来)	1 階	交代	1 階	交代					1 階	交代	1 階

受付時間：月～金 AMS:30～11:30 PM12:30～15:00 第2・第4土曜日 AMS:30～11:30 注)『OP』=手術 『EX』=検査  
 土曜日の診察は第1、第3、第5週は休診です。 ※土曜日は婦人科一般診察は行っていません。  
 受付時間は診療科によって変更になることがあります。 ※診察は原則予約制 令和7年4月1日～

詳細はホームページをご参照ください。

病院年報 第 5 号  
令和 7 年 6 月発行

発行 医療法人伯鳳会 大阪中央病院

編集 病院年報委員会

〒 530-0001 大阪府大阪市北区梅田 3 丁目 3 番 30 号

TEL 06-4795-5505

FAX 06-4795-5544

URL <http://www.osaka-centralhp.jp/>

